

明治十五年十月印行

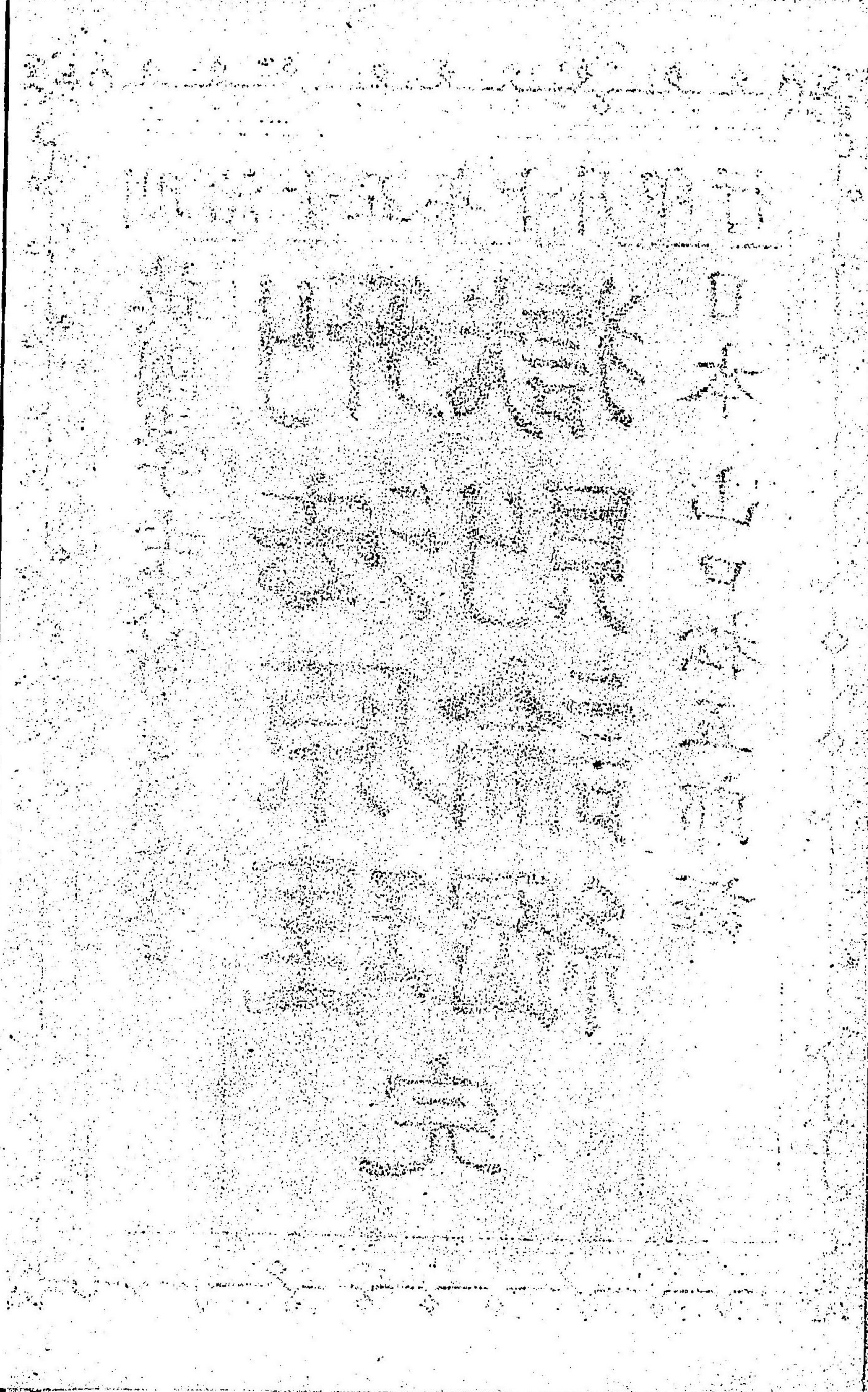
英國學士波斯邊鎖氏著

刑罰法原理
獄則論綱
完

日本山口松五郎譯



1600

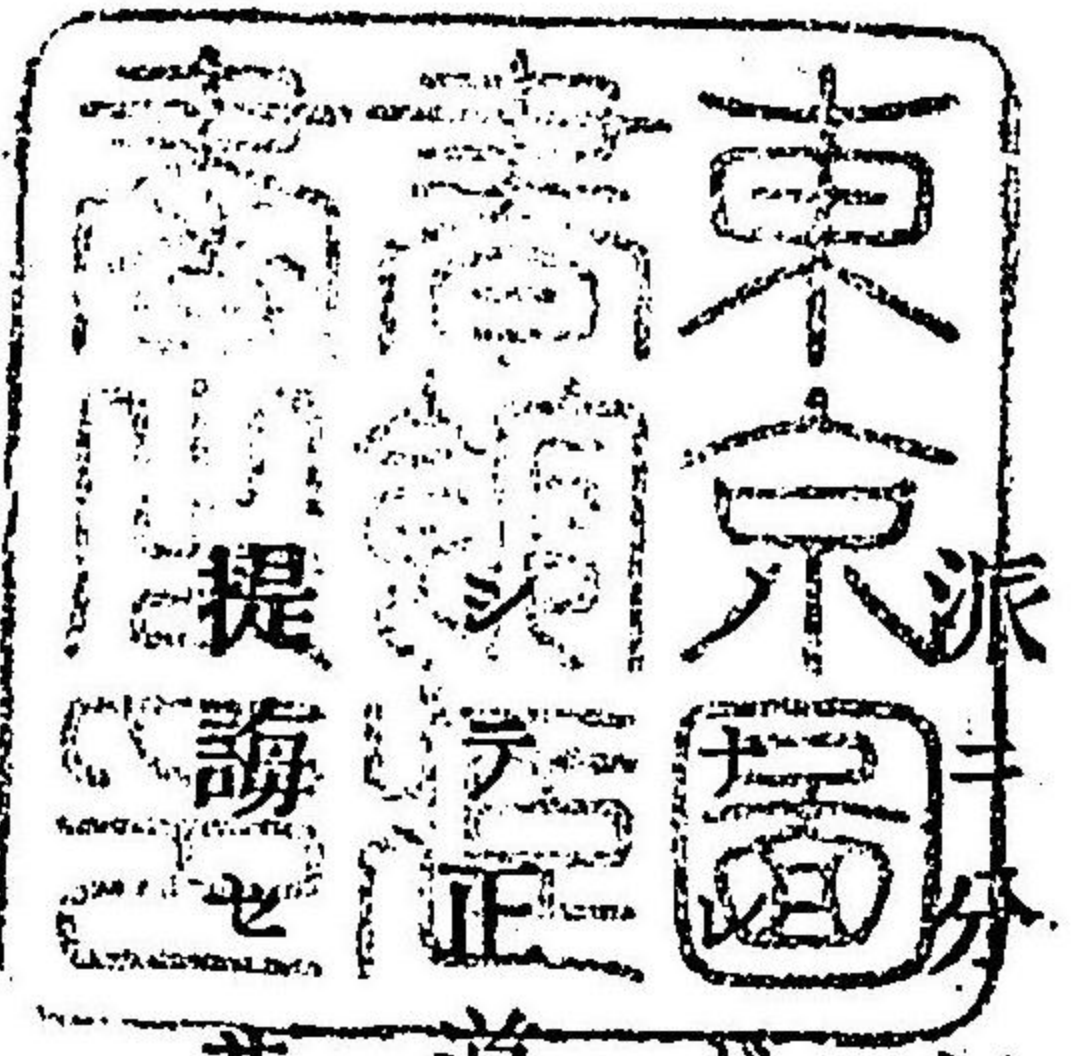


刑法原理獄則論綱

英國 波、斯邊鎖 著

日本 山口松五郎 譯

凡ソ人ノ事々物々ニ就テ反對ナル意見ヲ執リ相争フ
ヤ其正邪曲直ヲ判別スルニ在リ道義ニ於テ意見ヲ異
ニスルモ亦然リトス而シテ其道義ニ就テ相争フヤ二



レ一ハ純然タル正道ヲ執リ一ハ權道ヲ執ルモ
下共ニ眞理ヲ抱持スル所アルカ故ニ苟モ人ヲ
道ヲ踐マシメント欲セハ彼此ヲ斟酌シテ之ヲ
サル可ヲサルナリ其正道ノミヲ執ル者ノ説ニ

道義ハ權道
ノ一定不變
ノ標準ナル
ヲ論ス

曰ク人ハ公正無偏ノ標準ニ則ルヘキナリト是レ人ノ
行爲ニシテ或ハ然ルヘキモノアル可シ何トナレハ天
ノ人ヲ生スルヤ必ス生活ヲ支配スルノ原則アリ又既
ニ社會ヲ爲セハ自ラ遵守スヘキ規例人爲ニ由リ成ルモノ
ニ非ラスシテ自然ニ
生スル者チ云フヲ生スルカ故ニ之ニ據リテ一人一個ノ行爲ヲ
檢束スルハ天理ノ自然ニ出テ之ヲ檢束スルハ一人一
個ノ安居ヲ全フシ社會全體ノ安寧ヲ保スルニ於テ缺
ク可ラサル所タリ言ヲ更ヘテ之ヲ云ヘハ人間ノ最大
幸福ヲ保受スルニ緊要ナリトス故ニ此ノ如ク一人一
個ノ行爲ヲ檢束スルハ倫理ニ適フモノニ人ノ世ニ

管束ヲ受ク
ルモノ管束
ヲ受ケシム
ヘキ失費ヲ
拂フ者ヲ論
ス

在ルヤ必ス無ルヘカラサル所ナレハ是レ我輩ノ所謂
ル純然タル人道ト稱スルモノ是レナリ
又權道ヲ執ルモノ、說ニ曰ク一人一個ニ就テモ亦社
會全體ニ就テモ純然タル正道ヲ固執シ之ヲ管轄スル
ハ言フ可ク行ハル可カラサルノ言ナリト是レ亦一理
ナキニ非ス何トナレハ社會ノ法律ヲ設ケテ人民ヲ管
束スルヤ人民ハ若干ノ租稅ヲ出シ其保護ヲ受クルモ
ノナレド若シ人民ニシテ其法ニ背クキハ刑罰ヲ加ヘ
サル可カラズ刑罰ハ人ニ苦痛ヲ與フルモノナリ既ニ
人ニ苦痛ヲ與フルノ刑罰ヲ以テ之ヲ人ニ加ヘ且ツ租

税ヲ以テ獄費ニ充テ惡徒ヲ養ヒ以テ惡ソ之ヲ道義ニ
 適フト謂フヲ得ンヤ
 然ルニ若シ社會ノ現狀ニ於テ法律ノ干涉ヲ必要ナリ
 トセハ正道ヲ以テ之ヲ統轄スルヲ得サルヤ識者ヲ俟
 タスシテ知ルヘキナリ然リ而シテ社會ノ現狀ニ於テ法
 律ヲ設ケテ制限スルハ洵ニ今日ノ急務トスル所ナレ
 ハ此ノ如キ秩序ハ弊害ヲ生シ此ノ如キ秩序ハ利益ヲ
 起スカヲ須ラク視察ノ社會ノ現狀ニ適ス可キ法律ヲ
 制定ス可キナリ之ヲ簡言スルハ便宜ヲ主眼トシテ事
 物ヲ處置スルニ外ナラス是レ我輩ノ權道ト稱スルモ

是レナリ而シテ此二道ノ真理ヲ含有スルコト此ノ如
 ク明亮ナレハ專ラ前者ヲ執リテ全ク後者ヲ棄ルモ又
 後者ヲ偏執シテ前者ヲ全棄スルモ共ニ謬妄ヲ免レサ
 ルナリ何トナレハ文明ハ萬般ノ事物ニ就テ舊新ヲ折
 衷シテ之ヲ適用スルニ由リ進歩スルカ故ニ社會ノ秩
 序ヲ整理スルニ於テハ道義ト權道トヲ取り彼此ヲ對
 照シテ斟酌スル所アレハ始メテ其効ヲ奏ス可シ然ラ
 ハ則チ彼此ヲ對照比準スルハ洵ニ必要ナリト謂フ可
 シ若シ然ラスシテ純然タル道義ノミヲ以テ人ヲ統轄
 スルハ社會ノ現狀ニ幾層ノ改良ヲ加ヘルノ後ニ行ハ

ルヘシト雖モ今日直ニ之ヲ實行セントスレハ徒ニ架空ノ理論ニ惑ハサレテ遂ニ「ユトペヤ」想像上ノ安樂ナル島國ニシテ猶ホ支那泰ノ世ニ蓬萊トナ造出スル妄想ヲ爲スニ至ルノ憂アリ又スル者ノ如シ純然タル權道ノミヲ以テ社會ヲ管束セントスレハ物事ノ改良ヲ要スルノ今日ニ當リ其進路ニ障礙ヲ來シ之ヲシテ到底期ス可カラサルニ至ラシムルノ恐アルナリ然ラハ徒ニ妄想ニ惑ハサレス改良ノ進路ヲ遮斷スルニ至ラシメサルノ方法ハ唯以上ノ二道ニ依リ彼此ヲ對照シ之ヲ斟酌スルニ在ルノミ

儲テ屬正ノ何タルヲ確定スルハ今日社會ノ急務トス

ル所ナリト雖モ之ヲ判定スルニ付テハ先ツ純正ノ何タルヲ考察セサル可カラサルナリ何トナレハ純正ノ何タルヲ知ルニ非サレハ屬正ノ何タルヲ探知スルニ由ナケレハナリ之ヲ詳説スレハ現世我輩ハ目前ニ於テ最良トスル所ノモノヲ目的トスルモ尙ホ純正ノ何タルヲ知り之ヲ肺肝ニ銘シテ事ヲ爲スニ當テハ純正ニ至ランヲ目的トシ務メテ之ニ違ハサランヲ爲スヘキナリ蓋シ純正ノ事タル人ノ之ヲ爲スヲ得ルハ今日遽ニ望ムヘキニ非ラス且ツ千百歳ヲ經ルノ後モ尙ホ此ニ到ラサルモ測ルヘカラスト雖モ純正ハ屬正

ノ存スル所ヲ指示スルノ指南針ナルヘケレハ之ニ由
 リテ屬正ヲ求ムレハ之ヲ得ルヲ誤ラサルナリ若シ
 之ニ由ラスシテ之ヲ求ムレハ全ク反對ナル方向ニ至
 ルヘシ是レ我輩ノ屬正ヲ得ルニハ常ニ標準ヲ純正ニ
 取ラサルヘカラサル所以ナリ

余ノ此ノ如ク屬正ノ標準ヲ純正ニ取ルヲ必要トスル
 ハ豈ニ理論ノミニシテ止ムモノナランヤ近時此ノ方
 法ヲ適用シ隨テ害去リ利來ルヲ少ナカラサルハ史
 乘ヲ披閱スレハ實ニ其例ニ乏シカラサルナリ今自由
 貿易ニ就テ之ヲ例セシニ今ヲ距ル數十年前マテハ

各國共ニ貿易上ニ制限ヲ立テ互ニ自由ニ貿易スルヲ
 ナ禁シタルカ故ニ既ニ數百年ノ間保護貿易ヲ以テ却
 テ國家ノ靜謐ニ補益アリトシ之ヲ維持シタルハ蓋シ
 各國共ニ兵力ヲ恃テ強ハ弱ヲ凌キ大ハ小ヲ壓シ戰亂
 常ナキニ由ルナリ抑必需品ノ供給ヲ他國ニ仰クハ自
 國人ヲシテ獨立ノ志氣ニ乏シカラシメ産ヲ殖シ業ヲ
 興スノ道ニ害ヲ來スノ恐アルハ勿論ナレモ此ノ如キ
 戰國ノ時世ニアリテハ立法者ハ之ヲ度外ニ措クモ尙
 ホ輸出禁令ヲ設ケテ國民ノ利益ヲ保護スルヲ以テ必
 要トスヘキヲノ理由多シトス然レモ若シ之ニ據リテ

我英國ノ穀例穀類輸出ノ禁令ヲ以テ正當ナル法令ト言フカ如キアラハ即チ昔日戰亂ノ時世ニ當リテ商業ヲ保護スルノ要具タル保護主義ヲ以テ自由貿易ヲ要スル治平ノ今日ニ提出シ之ヲ正當ナリト云フニ異ナランヤ本來保護ノ事タル權道ニ出ツルモノニシテ之ヲ維持シタル理固ヨリ多カラサルニ非スト雖モ之ヲ排撃シテ遂ニ之ヲ廢棄ニ至ラシメタルモ亦權道ニ出ツルナリ今其自由貿易ヲ唱ヘテ保護貿易ヲ攻撃スルノ方法ヲ察スルニ貿易ノ關係スル所ニ就キ其遠キニ沂リ之ヲ密察熟考シ而シテ後其近キニ論及シ彼此ヲ對照シテ

論斷スルモノ、如シ
蓋シ數世不當ナル法律ヲ設ケテ貿易ヲ保護シタレモ其後道義ニ基キ痛ク之ヲ攻撃シタルカ故ニ遂ニ保護主義ハ變シテ自由主義ト爲リ其ノ是非ハ旣ニ結果ニ由リテ明白ナルニ至リタレハ之ニ由リテ政道ハ道義ニ外ナラサルヲ證明スルニ足ルモノトス人ハ己ノ能力ヲ自由ニ使用スルヲ以テ生活ヲ得ルカ故ニ之ヲ使用スルノ權利アリ又己ノ所好ニ從ツテ目的ヲ達スルニ非サレハ充全ニ生計ヲ營ムヲ得サルカ故ニ所好ニ從フノ自由アリ畢竟スルニ人ハ天稟所爲ノ自由ヲ好

ムカ故ニ若シ其所爲ニシテ他人ノ自由ヲ妨クルニ至ラサルノ間ハ道義モ限界ヲ立テ之ヲ制禁セサルハ固ヨリ其所ニシテ右ノ自由ヲ分類スレハ一ニシテ足ラスト雖モ貿易ノ自由モ亦此中ニ存スルモノトス原來政府ハ人殺、槍奪、毆闘、其他ノ侵害アルニ當テハ人ノ所爲ニ干渉シテ之ヲ制止スルハ固ヨリ其本分トスル所ナリト雖モ若シ人ノ所爲ニシテ茲ニ至ラサル以上ハ充分人々ニ自由ヲ得セシメテ之ヲ保護スルモ亦其本分トスヘキ所ニ非スヤ左レハ政府ニシテ苟モ其本分ヲ全フセント欲セハ貿易ニ自由ヲ與ヘテ之ヲ保護ス

ヘキナリ若シ之ニ反シテ其自由ヲ侵奪スルカ如キアレ●其本分ニ背キ其義務ヲ破ルノ責ハ免レサル所ニシテ乃チ保護者ノ地位ニ在リテ却テ侵奪者タルノ所爲ヲ爲スノ謗ヲ遁レ能ハサル可シ之ニ由リテ觀レハ苟モ眞誠ニ法律ヲ立テント欲セハ道義ニ基カサルヲ得サルヤ明白ニシテ道義ハ即チ其方向ヲ指南シ始終之ト併立スヘキナリ故ニ戰時ニ當リ必需品ヲ輸出スルハ國利ニ非サルニ由リ之ヲ嚴禁シテ一時ハ道義ニ背戻ニト雖モ其戰ヲ終フルニ及ンテヤ政治家ハ直ニ道義ノ存スル所ニ依リテ貿易ノ禁令ヲ解テ再ヒ舊體

ヲ回復センコトヲ謀ルニ非スヤ嗚呼徒ニ政府ノ壓制ヲ受テ我英國人ノ艱難辛苦ヲ受クルヤ既ニ久シ若シ數百年前ニ在リテ此理ノ世ニ明ナルコトアレハ我國人ノ權力ノ大ナル幸福ノ盛ナル德行ノ溢美ナルコト更ニ今日ニ幾百倍ナルモ未タ知ルヘカラサルナリ

余ハ所見ノ本位ヲ確定センカ爲メ此ノ如ク實例ニ徴シテ論究シタレハ道義ト權道トヲ對照比準スルハ眞ニ必要ニシテ若シ權道ノ一方ニ偏シテ道義ニ依ラサレハ過失ニ陷ルノ害アル所以ト又權道ノ標準ヲ道義ニ取ルニ於テ利ヲ得ルコト少カラサル所以トハ既ニ

明白ナルヲ信スルカ故ニ今ヤ進シテ細論ニ入ラントス

夫レ人智未タ開ケサル野蠻ノ時世ニ在リテハ政府ノ權力剛強ナルヲ要スレハ隨テ刑法モ酷烈ナラサルヲ得ス究竟スルニ諸制度ハ其管轄ヲ受クル人民ノ性質ニ因リテ確定スルモノナルカ故ニ人民若シ私利ニ戀々トシテ之ヲ謀ルニ忙シキカ爲メ或ハ激烈ニ過キタルニ由リ自由ノ政體ヲ設立スルノ時期ニ至ラサルヲ以テ徒ニ政府ノ壓制ヲ甘受シテ國費ヲ支給シ其使用如何ニ至リテハ毫モ視察セサルカ如キアラハ其人民

ハ能ク酷刑峻法ニ耐忍スルモノニシテ酷刑峻法ニ非
 サレハ亦之ヲ懲戒スルヲ得サルモノトス蓋シ人民自
 由ヲ得テ之ヲ保受スルヲ得ルハ眼前ノ利慾ニ惑フ
 ナク將來ノ結果如何ヲ熟察深考シテ以テ進退スルノ
 性質アルニ因ルヘシ故ニ苟モ人民ノ自由ヲ保存セン
 ト欲スルニ於テハ能ク眼前ノ小事ヲ遺レテ目的ヲ遠
 大ニ期セサルヘカラサルナリ若シ之ヲ疑フ者アレハ
 試ニ我英國人民ノ如キ能ク自由ヲ保存スルヲ得ル
 所ノ人民ニ就テ其政府ノ權力ヲ濫用スルヲ嫌惡シ
 テ之ニ抵抗スルハ眼前ノ小害ヲ恐ル、ニ因ル歟將タ

文明社會ト
 野蠻社會ト
 ハ刑罰ヲ異
 ニスヘキヲ
 論ス

又後日ノ大患ヲ生センヲ憂フルニ出ツル歟ヲ察セ
 ハ自ラ明瞭ナルニ至ルヘシ
 之ニ反シテ若シ眼前ノ利慾ノミニ著眼シテ將來ノ事
 ニ至リテハ毫モ豫察セサル人民ナレハ縱令ヒ政權ヲ
 有スルモ之ヲ以テ將來ニ至リ言フヘカラサルノ大害
 ナ生出スヘキ大事ヲ處置スルニ用ヒサルヤ必セリ然
 ラハ此ノ如ク心事ノ反對ナル人民ニ關シハ其不正ナ
 ル所爲ヲ罰スルニモ亦刑ヲ異ニセサルヘカラサルハ
 勿論ニシテ後者ヲ罰スルニ於テハ即時ニ刑罰ノ峻酷
 ナルヲ感覺セシムルヲ要スルカ故ニ簡畧ニシテ酷

烈ナル刑ヲ加ヘサルヘカラスト雖モ前者ヲ罰スルニ於テハ此ノ如ク即時ニ刑ノ峻酷ナルヲ覺ヘシムルヲ要セサルナリ即チ野蠻ノ人民ハ肉刑ニ非サレハ之ヲ恐怖セシムルニ足ラサルヘシト雖モ文明ノ人民ニ至リテハ柔和ナル長期ノ刑ハ能ク之ヲ恐怖セシムルニ足ルヘシ故ニ社會ノ未タ開ケサルノ時世ニ當リテハ壓制政府ヲ生出スルカ如ク亦必ス酷烈ナル刑法ヲ生出スヘシ而シテ此ノ如キ時世ニ酷刑ノ必要ナルハ實例ニ徴シテ觀易キ事ナリ曾テ伊太利ニ於テ女公爵ノ夫人ノ遺命ヲ奉シ死刑ヲ廢シタリシカ爲メニ人民ノ云フ

ニ於テ刑罰ヲ畏懼スルノ念ヲ減シ人殺頻リニ起リ其弊少カラサルニ由リ遂ニ再ヒ死刑ヲ設ケサルヘカラスルニ至リタルハ即チ其一例ナリ既ニ説クカ如ク社會ノ未タ開ケサルノ時世ニ當リ峻法酷刑ハ必要ニシテ之ヲ廢棄スルヲ得サルトノ掩フヘカラサルノ事實ナルハ勿論ニシテ縱令ヒ此ノ如キ時世ニ於テ公正無私ノ法典アルモ其行ハレサルヤ亦掩フ可ラサルノ事實ナルヘシ何トナレハ犯罪人ヲ取扱フニ道義ニ基キ寛大ナル方法ヲ用フルニ於テハ仁愛ニシテ聰明ナル官吏ナカルヘカラスト雖モ野蠻社

會ニ於テハ此ノ如キ官吏ヲ求ムヘカラサルノミナラ
 ス殊ニ犯罪ノ夥多ナルニ由リ此ノ如キ方法ヲ適用ス
 ルヲ得サルヘシ故ニ野蠻ノ時世ニ當リテハ犯罪人
 ヲ處置スルニ於テ極メテ簡便ナル方法ニ賴ラサルヘ
 カラサルナリ
 之ニ由リテ之ヲ觀レハ野蠻人民ノ間ニ完全無疵ノ法
 典ノ行ハレシヲ期望スルハ此等人民ノ間ニ完全無
 疵ノ政體ヲ行ハレシヲ期望スルニ異ナラサルヘシ
 故ニ壓制政治ヲ保存スルノ國ニ於テハ亦峻法酷刑ヲ
 保存スルヲ要スヘシ而シテ此ノ如ク壓制政治ヲ保存

スレハ隨テ峻法酷刑ヲ保存セサルヘカラサル所以ノ
 モリハ畢竟人民一般ノ性質ニ適合スルニ由ルナリ蓋
 シ野蠻ノ時世ニ當リテ法典寬ニ失スルノ害ハ社會ノ
 紛擾ヲ起スニ至レハ之ヲ以テ其酷ニ失スルノ害ニ比
 スレハ復ニ重大ナリトス夫レ壓制政治ノ不正ナルハ
 固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ壓制ニ非サレハ社會ヲ統治
 スルヲ能ハサル時世ニ在リテハ亂ニ至ルノ害ハ壓制
 ヲリ大ナルヘシ是ヲ以テ此ノ如キ時世ニ遭際シテハ
 壓制政治ヲ以テ道義ニ適フタルモノト謂フヘキナリ
 是ト同一轍ニシテ夫ノ斬絞火刑ノ如キ酷刑ハ其本質

ニ就テ論スレハ不正ハ則チ不正ナリト雖モ野蠻社會ニ於テ此等ノ酷刑ヲ用フルニ非サレハ法令行ハレス犯罪ハ益繁殖シ遂ニ其影響スル所ハ無辜ノ民ニ慘毒ヲ蒙ラスニ至ルヘシ是ヲ以テ此等ノ酷刑ヲ野蠻社會ニ適用スルコトモ亦道義ニ適合スト謂ハサルヘカラサルナリ之ヲ要スルニ如何ナル政體ヲ設立スルニ於テモ如何ナル刑法ヲ適用スルニ於テモ其被ラス所ノ害ト防ク所ノ害トヲ比較シ其小害ヲ被ラスモ大害ヲ防ク所ノ政體或ハ刑法ヲ撰用スレハ其處置ハ余カ所謂ル小惡ナルモノニシテ即チ屬正ト異ナルコトガカルヘ

シ
余ハ此ノ如クドレエコトヤシ希臘ノ酷烈ナノ法典ヲ

保庇スル論者ト共ニ酷刑ノ必要ナルヲ論定シ且ツ人智未タ開ケサルノ時世ニ當リ完全無疵ノ法典ヲ設立スルキハ却テ弊害ヲ生出スル所以ヲ論述シタレハ今ヤ一轉シ全ク道義ニ依ラスシテ權道ノ一方ニ偏向シ法典ヲ適用スルニ由リ爲メニ大害ヲ惹起シ文明開發ノ進路ニ障礙ヲ來スコノ少カラサル所以ヲ説明スル所アラントス
抑我英國ニ於テ刑罰ノ過嚴ナルカ爲メニ徒ニ犯人ニ

苦痛ヲ加ヘ其風儀ヲ却テ敗壞ニ至ラシメタルコトノ
 大ナルハ前百年代ニ如クハナシ是ヲ以テ當時ロミル
 リー氏及ヒ其他ノ諸氏ハ深ク之ヲ憂ヘ百方竭力シテ
 遂ニ此等ノ酷刑ヲ廢棄スルヲ得タリ蓋シ此ノ如クニ
 酷刑ヲ廢棄スルニ至リタルハ諸氏ノ功勞ニ由ルコト固
 ヲリ少カラスト雖モ畢竟スルニ其刑罰ノ道義ニ背キ
 且ツ當時ノ社會ニ適合セサルニ因ルモノナルヘシ然
 ラハ竊盜ノ如キ犯罪ヲ以テ死刑ニ處スルカ如キハ社
 會ノ安寧ヲ維持シ財産ヲ保護スルノ道ナラサルハ既
 ニ經驗ニ由リテ明白ナルニ非スヤ

今斯ニ彼ノペンドウエル氏ノ創定ニ係ル獄制囚徒毎
ニ監房
ヲ別異ス
ルノ制ヲ以テ道義ニ背戻スルモノトシテ之ヲ排撃セ
 シト欲セハ余ニ左袒スル者少カルヘシト雖モ囚徒毎
 ニ監房ヲ別異シテ相互ニ接近交談スルヲ禁スルコトノ
 道義ニ背戻シタルコトハ輕々觀易キ事ナルヘシ故ニ此
 獄制ノ不正ナル所以ヲ充分ニ説カサルヘカラサルナ
 リ今此獄制ヲ以テ囚徒ヲ處置スルノ結果如何ヲ察ス
 ルニ外形ヲ制スルノ虚効アリト雖モ内心ヲ感化シテ
 囚徒ヲ歸善セシムルノ實効ヲ顯サ、ルカ如シ曾テ此
 獄制ヲ保庇スル論者ノ統計表ニ據レハ囚徒ノ出獄シ

タル後ニ於テ再ヒ罪ヲ犯サ、リシ者少カラスト雖モ
 是レ眞ニ悔過歸善ノ實効アリテ然ルニ非ス何トナレ
 ハ人間ニ交談接聲ヲ禁シテ相互ニ交際ヲ爲サシメサ
 ルキハ爲メニ發狂シ或ハ懦弱ニ陷ルノ害アル者ナリ
 若シ縱令ヒ此ニ至ラサルモ日夜鬱憂トシテ心ニ快樂
 ナ得ルコトナク日ニ體力ノ衰耗ヲ來スコトハ自然ノ勢ナ
 レハ罪科ヲ犯サ、ルモ多クハ此ニ因ルヘシ
 然ラハ此獄制ヲ以テ處置スルノ囚徒放免ノ後ニ至リ
 再犯ヲ爲サ、ルハ罪科ヲ爲スノ剛氣ヲ失フニ由ルモ
 ノニシテ眞ニ改悔シタルノ故ニ非サルヤ知ルヘキナ

監房ヲ別異
 シテ囚徒ヲ
 獨居セシム
 ルコトノ弊害
 ナ論ス

リ故ニ余カ此獄則ニ對シテ異論スヘキノ要點ハ人心
 ナ改良スルヲ目的トシテ却テ反對ナル結果ヲ生スル
 ニ至ルコト是レナリ元來犯罪ノ事タル社會ニ抗敵スル
 ニ由リ生スルカ故ニ利己ノ念熾ナルニ由リ生シ人ヲ
 愛スルノ情熾ナルニ由リテ息ムヘシ故ニ人ノ他人ニ
 對シ不正ナル所爲ヲ爲サ、ルカ如キ又侵害ヲ蒙ラン
 トスル者アレハ之ヲ助テ其侵害者ヲ制スルカ如キ皆
 此愛情アルニ出ツルナリ是レ所謂ル同胞相憐ノ情ニ
 シテ社會ヲ爲スモ此情アルニ由ルモノトス蓋シ此情
 ヤ交際スルニ從テ日ニ腆キヲ加フモノニシテ今日既

ニ此勢アルハ眞ニ賀スヘキナリ然レトモ此情ヤ之ニ
 反シテ絶交スルヲ久シケレハ隨テ薄カラサルヲ得サ
 ルモノトス此事タルヤ獨居スル所ノ老秃ノ貪慾ナル
 ニ徴シテ知ルヘシ故ニ余ハ監房ヲ別異シテ囚徒ヲ獨
 居セシメ且ツ相互ニ談話スルヲ禁スルカ如キ法ハ日
 ニ同胞相憐ノ情ヲ薄クスルニ由リ寧ロ囚徒ノ心ニ道
 義上ノ拮制ヲ堅クスルヨリ之ヲ弛ムルノ害アルヲ
 恐ルナリ但シ此理論タルヤ余カ既ニ久シク抱持ス
 ル所ナレハ今實際ニ照シテ之ヲ證明スル所アルヘシ
 「加比丹」マコリノ氏曰ク余ノ觀察スル所ニ據レハ久

シク監房ヲ別異シテ囚徒ヲ獨居セシムレハ利己ノ念
 ナ發シ隨テ同胞相憐ノ情ヲ減スルヲ以テ出獄シ家ニ
 歸ルニ及ンテハ固ト有爲活潑ノ氣力ニ乏シカラサル
 者ト雖モ家務ヲ厭ヒ世間ヲ避クルノ念ヲ生セリト之
 ニ由リテ觀レハ監房ヲ別異シテ各自ニ囚徒ヲ獨居セ
 シメテ接聲交談ヲ禁スルハ遂ニ精神ヲ挫折シ體力ヲ
 衰耗スルノ害アルノミ決シテ人心ヲ改良スルノ道ニ
 非サルヘシ

此ノ如ク此獄制ヲ以テ公正ナラストシテ排撃スル所
 アレハ反對論者ハ如何ナル理由アリテ此ノ如ク攻撃

スル乎又他ニ如何ナル良法アル乎ヲ問フナルヘシ然
レモ是レ余カ答フルニ難シトセサル所ナレハ更ニ之
ヲ説明セントス

夫レ人ハ己ノ所好ニ從テ事ヲ爲スモ他人ノ自由ヲ妨
クルニ非サレハ政府ノ干涉スヘキ所ニ非ス故ニ若シ
其人ニシテ己ノ勞力ニ由リ生出スル所ノ所得ヲ以テ
満足シ敢テ他人ノ勞働若クハ自然ニ因リテ得タル利
益ヲ妨害スルヲナキトキハ決シテ之ニ刑罰ヲ加フル
ヲ得サルヘシ然レモ若シ人殺、竊盜、毆打其他ノ侵害
ヲ爲スカ如キ所行アラハ直ニ之ヲ處置スルハ政府ノ

本分ニシテ道義ト權道トニ適スルモノトス而シテ其
權道ニ適スルヤ否ハ今日既ニ社會ノ經驗ニ由リテ明
ナル所ナレハ敢テ多辯ヲ要セスト雖モ道義ニ適合ス
ル所以ニ至リテハ未タ少シク明亮ナラサル所アルカ
如シ故ニ今人間ノ生活ヲ支配スル所ノ原則ニ據リテ
說解スル所アラントス

凡ソ活物ノ生ヲ保存スルト否トハ其動作ト之ニ隨起
スル所ノ結果トノ關係ヲ維持スルト否トニ在ルハ是
レ動物ノ上下ヲ論セス皆同シガラサルハナシ例スレ
ハ酸素ヲ吸收スルニ非スシテ却テ炭素ヲ吸收スレハ

忽チ斃死スルカ如キ又食餌スル後平素ノ如ク胃腑ノ
 收縮セサルカ爲メ或ハ胃液ヲ食物ニ注入セサルニ由
 リ遂ニ食物ノ停滯ヲ惹起シ爲メニ元氣ヲ損スルカ如
 キ又關節ヲ活潑ニ運動セサルニ付キ心臟ニ震動ヲ生
 スルノ刺衝ヲ缺キ血液ノ供給ヲ遲緩ナラシメタルカ
 爲メ或ハ動脈ニ腫物アルニ由リ心臟ヨリ派出セシ所
 ノ過度ナル血液其脈中ヲ自由ニ通行スルヲ得サルニ
 由リ元氣ヲ害スルカ如キノ類ナリ之ニ由リテ觀レハ
 人體ノ強弱ハ生理上ノ原因ト其結果トノ關係ヲ維持
 スルト否ラサルトニ在ルヤ明ナリ

人間ノ生活
 ヲ完全セサ
 ルヘカヲサ
 ルヲ論ス

又智力ニ於テモ同上ノ關係アリトス例ヘハ暴酒シタ
 ルカ爲メ腦ヲ害セラル、ニ付キ或ハ生來智覺力ノ鈍
 キニ由リ筋骨ヲ誘動シ其順序ヲ得セシメサルカ如キ
 アラハ體ノ運動ハ意ノ如ク制セラレサルカ故ニ過失
 アルヲ免レサルヘシ又中風病人ノ如キハ常ニ心ノ
 感動ト筋骨ノ運動トノ間ニ在ル自然ノ關係ヲ破壊ス
 ルヲ以テ生命ヲ害スルコト少カラサルヘシ又狂者ノ如
 キハ智覺精神ノ錯亂スルヲ以テ誤解シ易キカ故ニ其
 所爲ハ動モスレハ輒チ亂暴ニ涉リ死ニ瀕スル危害ニ
 罹ルコト少カラサルニ由リ夭折スル者多シトス

以上ハ體力ニ於テモ智力ニ於テモ健康ナル作用ヲ爲
 サ、レハ必ス人身上ニ大害ヲ惹起スヘキ所以ヲ説明
 シタレハ今ヤ又品行上ニ就テ之ヲ指示センニ人ノ外
 物ト相接スルヤ自ラ其間ニ因果應報ノ關係ヲ存スル
 カ故ニ人ノ充全ナル生活ヲ得ルト否トハ其關係如何
 ニ在ルナリ故ニ其舉止進退若シ善ナレハ快樂ヲ受ヘ
 ク若シ善ナラサレハ苦痛ヲ來スヘシ是ヲ以テ苟モ社
 會ノ安寧ヲ保維シ各人ノ生活ヲシテ悉ク完全ナラシ
 メント欲セハ各人ヲシテ相互ニ其行爲ニ干涉スルカ
 如キヲ以テ之ヲ妨害セシメサルニ在ルノミ

更ニ之ヲ詳論センニ抑人ノ勤勞スル事ト之ニ由リテ
 衣食ヲ得ル事トノ連接シテ相離レサルハ自然ノ法則
 ナリ是ヲ以テ懶惰ニシテ働カサレハ衣食其乏ヲ告ケ
 能ク勤勞スレハ衣食其不足ヲ訴ヘサルヘシ然レモ此
 ノ如ク心身ヲ勞スレハ必ス其結果ヲ收ムルヲ得ル
 ハ自然ノ法則ナルニ拘ハラヌ既ニ其結果ヲ收ムルモ
 若シ他人之ヲ奪フコトアレハ衣食ニ乏シカラサルヲ得
 サルヘシ故ニ此等ノ場合ニ於テ被害者ハ生活ヲ完全
 ニスルニ於テ缺ク可ラサル衣食ヲ缺キ爲メニ氣力ヲ
 養成スルノ道ヲ失フヲ以テ即チ身體上ノ災害ヲ受ク

ルモノナリ若シ常ニ此ノ如キ災害ニ遭遇シテ止ムコ
 ナキ時ハ終ニ身命ヲ保ツコトヲ得サルニ至ルヘシ蓋シ
 不正ノ徒アレハ必ス他人ヲシテ此ノ如キ災害ニ際會
 セシムヘキモノトス而シテ社會ニ於テ常ニ此ノ如ク
 勤勞ト其所得トノ關係ヲ破ル者アルニ由リ直接ニ其
 災害ヲ被ムル者少カラサルハ固ヨリ論ヲ俟タスト雖
 モ爲メニ人ヲシテ勤勞スルノ念ヲ薄カラシメ隨テ缺
 乏ヲ來セハ間接ニ其害ヲ受クル者モ亦多シトス要ス
 ルニ各人ノ完全ナル生活ヲ得テ生法ヲ遵奉スルノ道
 ハ相互ニ勤勞ト其所得トノ關係即チ勤勞ニ由リテ其

所得ヲ收ムルコトヲ妨害セサルニ在ルノミ

所有權ノ本
 源ヲ論ス

又夫ノ所有權ト稱スル者ノ如キハ既ニ説ク所ノ關係
 チ妨害セスシテ生法ヲ遵奉スルニ由リ自然ニ起ル者
 ナリ若シ然ラスシテ筋骨ヲ勞シテ既ニ結果ヲ收ムル
 モ他人ノ擅ニ之ヲ奪フコトアレハ其疲勞ヲ慰スルノ道
 チ失ヒ終ニ凍餓死スルニ至ルヘシ是レ所有權ノナカ
 ルヘカラサル所以ニシテ且ツ此他一人一個ノ權利ノ
 如キハ直接ニハ人ト人トノ關係ヨリ生スル者多シト
 雖モ畢竟スルニ是レ皆勤勞ト其所得トノ關係ヲ保維
 スルニ於テ缺クヘカラサル者タリ然ラハ則チ間接ニ

ハ此關係ヨリ起ル者ト云フヘシ道德家ニ依テハ此等
 ノ權利ヲ以テ人法ヨリ起源スルト云ヒ或ハ權道ニ由
 リ始メテ確定スルト云フ者アリト雖モ皆邪說タルヲ
 免レサル者ナリ而シテ此ノ如ク妄言ヲ發スルニ至ル
 モノハ畢竟人間ノ動作ト其結果トノ相離ルヘカラサ
 ルヲ知ラサルニ由ルノミ抑人間ノ生ヲ得テ此世ニ
 出ツルヤ此ニ至ラサルノ前ニ於テ必ス其要スル所ノ
 者アルヘシ然ラハ人間ノ完全ナル生活ヲ得ルノ前ニ
 於テ亦其要スル所ノ者ナカルヘカラサルナリ蓋シ人
 間ノ完全ナル生活ヲ得ルニ於テ其要スル所ノ者多シ

ト雖モ道義ヲ守リ互ニ相害セサルヲ以テ最モ緊要
 ナリトスルハ大問題ナリ

此ノ如クニ生命ヲ保維スルハ人間ノ正當ナル目的ニ
 シテ道義ノ本旨ニ適スルモノトセハ若シ他人ヲ妨害
 シテ生法ニ從フヲ得サラシムル者アレハ之ヲ管束
 シテ其妨害ヲ爲サシメサルハ則チ道義ノ本旨ナルヘ
 シ而シテ其然ル所以ノモノハ他ナシ人間ノ生命ハ各
 自ノ間ニ限界ヲ立ツルニ非サレハ之ヲ保維スルヲ
 得サルハ勿論ニシテ縱令ヒ其限界ヲ立ツルモ常ニ之
 ヲ維持セサレハ充全ナル生活ヲ得能ハサルヘシ是ヲ

以テ生活スルヲ以テ人間ノ權利ナリトセハ其生活
 ナ爲スニ於テ相互ニ遵奉セサルヘカラサル限界ヲ侵
 シ或ハ人ニ迫リテ之ヲ侵サシメントスル者アレハ之
 ナ社會ヨリ除斥スルモ亦人間ノ權利ナリト言フニ在
 ルノミ是レ蓋シ政府カ犯罪人ヲ檢束スヘキ權利ノ由
 リテ起ル所以ナレハ其權利ハ犯罪人ニ對シ贓物ノ返
 還若クハ損害ノ賠償ヲ要求スルヲ得ヘキ乎又其權
 利ニ相當ナル限界ヲ立ツヘキ乎今斯ニ討究セサル
 ヘカラサルノ大問題タリ

先ツ人ハ犯罪人ニ對シテ贓物ノ返還若クハ損害ノ賠

償ヲ要求スルノ權利ヲ有スルヤ否ヲ判定セシニ人ノ
 生法ニ從フハ道義ノ本旨ニシテ社會ノ規例天然ニ守
ラナヲ遵奉セサルヘカラサル所以ハ即チ其本旨ニ悖
 戾セサラシムルニ在ルナリ故ニ若シ社會ノ規例ニ背
 反シ他人ノ生活ヲ妨害スル者アレハ之ヲシテ其損害
 ナ賠償セシムヘキハ理ノ當サニ然ルヘキ所ナルヘシ
 而シテ其目的トスル所ハ畢竟人間ヲ完全ナル生活
 ナ得セシムルニ在ルカ故ニ此ノ如ク犯人アルノ場合
 ニ於テ被害者ハ犯罪人ニ對シ其犯罪ニ由リ受クル所
 ノ損害ヲ賠償スヘキヲ要求スルノ權利ヲ有スルモ

ノトス例スレハ盜犯ニ付テハ贓物ノ返還ヲ促シ若クハ其損害ヲ賠償セシムルカ如キ又殴打創傷ニ付テハ外科醫ノ藥料ヨリ其他病ノ爲メ苦痛シタルヲ及ヒ日月ヲ曠過シタルヲ等ニ至ルマテ之ヲ賠償セシムルカ如キ是レナリ

被害者ニ損害ノ賠償ヲ請求スルノ權利アルヲ并ニ其權利ニ限界ナカサルヲ論ス

又此權利ニ相當ナル限界ヲ立ヘキヤ否ヲ論定センニ抑犯人ヲシテ再ヒ犯罪ヲ爲スヲ得サシムルカ爲メ之ヲ檢束スルハ道義ノ本旨トスヘキ所ナルヘシ是ヲ以テ若シ他人ノ生活ヲ充全ニスルヲニ於テ害アルヲ顧慮スルヲナク其貯藏スルノ品物ヲ掠奪シテ之ヲ使

用スルヲ快樂ヲ得セシメサル時ニ於テハ其犯者ヲ檢束セサルヘカラサルハ勿論ニ付キ之ヲ檢束スルニ必要ナル權力ヲ使用シテ之ヲ檢束スルハ政府ノ本分トスヘキ所ナリ何トナレハ各人ノ自由ヲ保存スルカ爲メ社會ニ其自由ヲ妨害スル者ヲ檢束スルノ權利アルハ道義ノ許ス所ナレハナリ然レモ犯人ヲ讐敵視シテ過嚴ナル刑罰ヲ加ヘ徒ニ之ヲ苦痛セシムルハ道義ノ本旨ニ適スルモソト謂フヘカラサルナリ夫レ人間ヲシテ彼我ノ別ナク完全ナル生活ヲ得セシムルヲハ道義ノ本旨ニシテ且ツ各人ノ間ニ限界ナカルヘカラサ

ルノ旨趣ハ社會ノ全員ヲメ悉ク生活ヲ完全セシムルニ在ルヘシ故ニ縱令ヒ犯人ノ再ヒ犯罪ヲ爲スノ恐アルヲ以テ之ヲ豫防スルカ爲メ之ヲ檢束スルハ道義ノ本旨トスル所ナルモ嚴酷ニ過レハ却テ其本旨ニ背戻スルニ至ルヘシ何トナレハ生法ニ從ヒテ自由ヲ主張スルノ目的ハ人間ヲメ生命ヲ失ハシメサルニ在レハ犯人ト雖モ徒ニ其生命ヲ殞セシメサルヘカラサルハ勿論ナルヘシ故ニ犯人ノ所爲社會ノ安寧ヲ害スルニ至ラサル間ハ之ヲシテ成ルヘク充全ナル生活ヲ得セシムヘキナリ世俗ノ論說ニ據レハ人ニシテ一旦罪ヲ

犯セハ都テ權利ヲ拋棄セサルヘカラサルカ如シ此等ノ說タルヤ現行ノ國法ニ適スヘシト雖モ決シテ道義ノ本旨ニ適スルモノト謂フヘカラサルナリ何トナレハ犯人ニ自由ヲ與フレハ社會ノ安寧ヲ害スルニ至ルカ故ニ其安寧ヲ害スヘキ自由ヲ剝奪スルハ固ヨリ其所ナレモ其能力ヲ働シ利益ヲ得ルヲ自由ニ至ルマテ之ヲ禁止スルコトハ道義ニ背反スレハナリ若シ余カ此ノ如ク犯人ノ權利ヲ保護スル所アルヲ以テ或ハ之ヲ排撃スル者アルヘシト雖モ若シ自然ノ理ニ據リテ其權利ノ存スル所ヲ考究セハ余カ所論ノ非ナラサル

ナ覺悟スルニ至ルヘシ
 天ノ人ニ生ヲ與ヘ之ヲ維持スルノ法ハ囚徒ノ身ト雖
 モ自由ノ身ト雖モ敢テ異ル所ナカルヘシ何トナレハ
 囚徒ト雖モ消化速ナレハ食慾ノ急ナルハ自由ノ人ト
 同シカラサルハナシ又囚徒創傷ヲ蒙ムルコトアルモ其
 平癒ニ至ルノ順序ハ自由ノ人ト異ルコトナシ又囚徒ノ
 知覺力ニ因リテ事物ヲ知覺スルコト未タ入監セサル以
 前ト異同アルコトナシ而シテ醫師ノ囚徒ニ藥ヲ與ヘテ
 効驗アラシコトナシ期望スルモ自由ノ人ニ對スルト異ナ
 リサルヘシ故ニ若シ此ノ如ク事物ノ順序ニ於テ囚徒
 ト自由ノ人ト異ルナキヲ知ラハ縱令ヒ囚徒ト雖モ他
 人ノ害ヲ爲スニ至ラサレハ其自由ヲ保存シテ生法ヲ
 遵奉スルハ其義務ナルヘシ
 又他例ニ依リ更ニ論センニ既ニ説ク如ク生法ノ道義
 本原ナレハ若シ此法ヲ犯スアレハ必ス之ニ相當ナ
 ル罰アルヘシト雖モ決メ其罰ハ程度ヲ過キサルモノ
 トス例スレハ人ノ誤テ倒ル、アレハ傷創或ハ其他ノ
 害ヲ爲スヘシト雖モ之レカ爲メ傷寒或ハ痘症ヲ發ス
 ルニ至ラサルヘシ又不消化物ヲ食スレハ心臟ノ紛擾
 ナ起スヘシト雖モ之レカ爲メ骨ヲ折シキ或ハ脊髓

骨ニ影響ヲ及ホスニ至ラサルヘシ然ラハ此ノ如ク身體上ノ過失ヲ罰スルヤ自然ニ生スルノ害ニ過ルナク又及ハサルナキナリ然ラハ此例ニ從テ社會ノ法律ヲ設立セサルヘカラサルナリ故ニ社會ノ安寧ニ必用ナル規則ヲ破ルモノアレハ相當ナル刑罰ヲ加ヘテ之ヲ制限スルハ至當ナリト雖モ過度ナル刑罰ヲ加フヘカラス是ヲ以テ犯人ヲメ犯罪上ノ損害ヲ賠償セシメ且ツ再ヒ此等ノ犯罪ヲ犯スヲ得サラシムルカ爲メニ必要ナル制壓ヲ之ニ加フルノミナラス其他ニ苦痛ヲ加フルカ如キアラハ是レ道義ノ本旨ニ背戾スルヤ明

白ナリ故ニ余ノ意見ヲ以テスレハ社會ニシテ此限制ヲ踰越スルヲアレハ社會ハ却テ罪人ニ對シ犯人タルヲ免レサルヘシ此ノ如ク論スルハ寛仁ニ失スルモノトシテ之ヲ排撃スルハ世俗ノ通弊ナリ然レモ原來人ノ過失アルニ由リ自然ニ生スル結果ヲ受ケシムルヲ以テ至當ナリトセハ其外ニ刑罰ヲ之ニ加フルハ道義ノ禁スル所ニシテ且ツ寛仁ニ失スルノ恐ナキモ激烈ニ過クルノ憂アルヘシ抑社會ノ犯人ニ對シ贓物ノ返還ヲ促シ又ハ賠償ヲ要シ且ツ社會ノ安寧ヲ維持スルカ爲メ之ニ制

限ヲ加フルハ道義ノ許ス所ニシテ犯人ニ於テ之ヲ甘
 受スルハ至當ナレドモ若シ其制限ニシテ程度ヲ過ク
 レハ之ヲ抗拒シテ受ケサルモ亦道義ノ許ス所ナリ且
 ツ縱令ヒ犯人刑期ニ在ルモ之ヲシテ己ノ勞力ニ頼リ
 衣食モシムルハ是レ亦道義ノ命スル所ナラヌヤ左レ
 ハ社會ノ安寧ヲ保維スルカ爲メニ相當ナル制限ヲ犯
 人ニ與ヘテ自ラ衣食モシムルノ制ヲ設ケタル以上ハ
 別ニ刑罰或ハ其他ノ制壓ヲ加フルカ如キ所爲ヲ以テ
 犯人ヲ制縛ス可ラサルモノトス又犯人ニ於テ己ノ勞
 力ニ頼リテ衣食スルノ權力アルコトハ未タ罪ヲ犯サ

囚徒ヲシテ
 己ノ勞力ニ
 由リ衣食セ
 シメサルハ
 カラサルコ
 ナ論ス

ルソ時ト毫モ異ナラサル所ナレハ社會ノ安寧ヲ保維
 スルカ爲メ己ムヲ得サルニ由リ加ヘタル制限ハ之ヲ
 甘受シテ生活スルハ其務メトスヘキ所ナリ蓋シ囚徒
 ノ能力ヲ使用スルノ機會ヲ得テ衣食ヲ求ムル權利ア
 ルコトハ既ニ説ク如ク社會ノ罪人ヲ制限スルコトハ社會
 ノ安寧ヲ保護スルニ止メテ過度ナル制壓ヲ加フ可カ
 ラスト云ヘルノ理ニ基キテ起ルモノトス是ヲ以テ社
 會ハ犯人ヲシテ此機會ヲ利用シ成ルヘク完全ナル生活
 ヲ得ルコトヲ以テ其義務ト爲サシムヘキナリ然ルニ若
 シ社會ノ犯人ニ對スルノ所爲此ニ出デヌト徒ニ苦役

ニ就カシメ工錢ヲ與ヘサルカ如キアラハ囚徒ヲシテ
 職役ニ就カシムルヲ以テ刑罰ノ一部ト爲スニ至ルヘ
 キナリ

又犯人ヲシテ己ノ勞力ニ頼リ衣食セシムルハ社會ノ
 利益ニシテ道義モ亦許ス所ナルヘシ何トナレハ社會
 ノ犯人ヲ捕ヘテ之ヲ獄ニ繫クヲ以テ義ト爲ス所以
 ノモノハ本來犯人ヲ監禁スルハ之ヲシテ社會ノ天然
 或ハ勤勞節儉ニ依リテ得タル所ノ物ヲ妨ケサラシム
 ルニ在レハ犯人ヲシテ己ノ勞力ニ頼リ自ラ衣食ヲ求
 メシメテ社會ノ負擔ト爲ラシメサルハ義ニ非スシテ

何ソヤ若シ然ラザレハ犯人ハ何ニ依テ衣食ヲ求ムル
 ヲ得ヘキ乎必スヤ直接ニハ國庫ヲ仰キ間接ニハ人
 民ノ懷中ヲ頼マサルヲ得ス既ニ之ヲ頼ムトセハ其政
 府ノ人民ヨリ得タル所ノ財産ハ如何ナルモノ乎必ス
 人民カ己ノ勞力ニ由リテ得タルモノニ外ナラザレハ
 即チ其人民ノ完全ナル生活ヲ得ルカ爲メ求メタルモ
 ノニ非スヤ左レハ其人民ノ勤勞ニ由リテ得タル財産
 ヲ取テ犯人ヲ養フハ此等ノ人ニ對シ其完全ナル生活
 ヲ得ルノ道ヲ妨クルニ外ナラス然ラハ犯人ハ政府ノ
 手ヲ假リテ此等ノ人ニ對シ間接ニ侵害ヲ與フルモノ

予謂フヘキナリ、人ニ...
 蓋シ此等ノ監獄費ヲ領收スルコソ國法ニ適スルヤ否
 ハ今此ニ問ハサル所ニシテ其國法ノ上ニ位シ之ヲ管
 理スヘキ道義ニ適スルヤ否ヲ論定スルニ在リ今道義
 以存スル所ヲ察スルニ本來人間ハ其所爲ニ由リ生出
 スル所ノ結果ハ利トナク害トナク皆之ヲ受クヘキ責
 アルカ故ニ犯人モ亦其犯罪上ヨリ生スル所ノ苦痛ハ
 已ニ之ヲ甘受シテ毫モ他人ニ其害ヲ被ラシメサル可
 ラサルナリ然ラハ犯人ニシテ自ラ業ヲ營テズ他人ノ
 扶助ヲ求ムレハ間接ニ附帶シ犯罪ヲ犯スモソト謂フ

可シ何トナレハ若シ此ノ如ク犯人ガ他人ノ扶助ヲ要
 スレハ既ニ他人ニ加ヘタル害ヲ償ハズシテ却テ新ニ之
 ニ害ヲ加フルト同一ナレハ即チ既ニ他人ノ完全ナル
 生活ヲ得ルノ道ヲ妨ケ其妨害ヲシテ益大ナラシメタ
 ルナリ之ヲ再言スレハ社會ノ既ニ制壓シテ防カント
 シタル害ヲシテ再起セシメタルモノナリ故ニ犯人ニ
 制壓ヲ加フルヲ以テ道義ノ許ス所ナリトセハ遊手
 徒食ノ囚徒ニ扶助ヲ與ヘサルモ亦道義ノ許ス所ナリ
 ト謂フヘキナリ
 前既ニ掲クル所ハ金匱無缺ノ法典ヲ制定スルニ必要

ナル大義ニ係ルモノニシテ之ヲ約説スレハ即チ犯人
 ナシテ贓物ヲ返還セシメ或ハ賠償ヲナサシムヘキ
 又社會ノ安全ヲ保維スルニ必要ナル限制ヲ犯人ニ加
 フヘキ又過度ナル制限ヲ之ニ加フヘカラサルコト又
 在獄或ハ監視中ト雖モ犯人ヲ己ノ勞力ニ頼リテ衣
 食セシムヘキ是レナリ蓋シ金匱無缺ノ法典ノ直ニ
 今日ニ行ハレサルコトハ既ニ現世ニ於テハ道義ヲ酌ミ
 權道ニ依リテ治國ノ策ヲ立ツルコトノ必要ナルヲ論シ
 タルコトヲ以テ明白ナリトス偕テ野蠻ノ時代ニ在テハ
 犯罪ヲ多ク且ツ大ナルヲ以テ峻法苛刑ヲ用フルニ非

テハ社會ノ安寧ヲ維持スルヲ得サルカ故ニ此ノ如
 キ時世ニ之ヲ用フルハ已ムヲ得サルニ出ツルモノニ
 シ道義モ亦許ス所ナラスヤ左スレハ野蠻ノ醜境ヲ去
 リ文明ノ佳域ニ達セントシテ其間ニ彷徨スル社會ニ
 在リテハ現時ノ事情ヲ斟酌シテ道義ニ準據スルハ其
 急務トスル所ナルカ如シ然ラハ現行ノ法典完全無疵
 ナラサルハ固ヨリ論ヲ俟タサル所ニシテ一方ニ於テハ
 贓物ヲ返還セシメ又ハ之ヲ賠償セシメントスルモ得
 サルコトアルヘク又一方ニ於テハ全ク犯人ヲシテ己ノ
 勞力ノミニ頼リ衣食ヲ求メシムレハ體力ノ虛弱ナル

カ爲メ或ハ工業ニ熟練セサルニ由リ恰モ別ニ刑罰ヲ加フルカ如キヲアルヘキナリ然レモ此ノ如キ缺點アルヲ以テ決シ余カ所論ヲ動かズニ足ラサルヘシ何トナシム余カ主トシ論スル所ハ成ルヘク道義ノ命ヲ守ル之ニ違ハサランヲ務ムルニ在リ且ツ經驗上ヨリ視ルモ其命ニ背戾スルカ如キアラハ啻ニ利ナキノミナラズ却テ害アルノ恐ナキ能ハサレハナリ要スルニ法典ヲ改革スル毎ニ道義ニ準據シテ之ニ近カラントヲ務ムヘシト言フニ過キサルノミ

備テ道義ヲ重ニスルヲハ近時ニ至リ漸々進歩シ爲メ

ニ實益ヲ得ルヲ少カラサルナリ夫レ國異レハ從テ其事情モ亦同カラスト雖モ近時諸國ノ實驗ニ據レハ舊來ノ獄則ヲ廢シ新ニ獄則ヲ設ケタルカ爲メ利益ヲ得ルヲ少カラサルニ至テハ皆異ラサル所以ノモトハ是レ畢竟スルニ道義ヲ重ニスルニ由ルノミ今日耳曼佛朗西西班牙英蘭愛蘭奧地利亞ノ監獄ノ報告書ニ據レハ獄則ヲ寬ニシ且ツ囚徒ニ己ノ勞力ニ頼リ衣食セシムルヲノ實効アルヲ證スルハ皆同一ニシテ而シ其實効ハ最モ道義ヲ重シテ獄則ヲ設ケタル國ニ於テ大ナリトス其實効ヲ顯シタル獄則ニノ異常ノ實事ヲ示

スモノハミ^ニナ^リ日耳曼列國ノ一ナル^ル「^ハ」^リノ監獄ニ於テ典獄ム、オバー^メエル氏ノ制定ニ係ル獄則是^レナリ。同氏ノ未タ此ニ來ラサルノ前ニ在リテハ監房毎ニ囚徒六百乃至七百名ヲ入ル、ナ常トス而シテ其各囚徒ハ鐵鎖ヲ以テ腰間ニ繚帶セシメ其鎖端ニ重量ナル鐵錘ヲ附シ趨走ニ便ナラサシム又一百ノ兵卒ヲ監視ニ充テ或ハ門口ヲ監視セシメ或ハ獄屋ノ外壁ヲ監察セシメ或ハ獄内ノ通路、工役場、臥房ヲ護衛セシム又甚シキハ破獄脫監ヲ防ク爲メニ夜中ハ二十乃至三十ノ狂犬ヲ通路或ハ内庭ニ放テ之ヲ看視セシメタリ此ノ

如ク獄則ノ嚴酷ナルニ拘ハラズ囚徒ハ益兇惡ヲ極メ獄則ヲ輕ンジ之ヲ破ル^トヲ以テ敢テ意ト爲サ、ルカ如シム、オバー^メエル氏茲ニ來ル初メ獄屋ノ况狀ヲ視察シ狹隘ナル監房ニ兇猛ナル囚徒ノ蝟集スルヲ以テ之ヲ視テ餓鬼ノ集會所小説上ノ語ナリナリト云ヘリ其慘狀タルヤ推知スヘキナリ。然ルニ同氏ノ此ニ來リ典獄ニ任スルニ及ンテハ此苛制ヲ廢メ鎖ヲ輕フシ且ツ犯罪ノ輕重ニ依リ之ヲ附スヘキ囚徒ト附ス可ラサル囚徒ヲ區別シ又番兵及ヒ狂犬ニ至リテハ全ク之ヲ廢シ囚徒ヲ待遇スルニ仁恤ヲ

主トセルヲ以テ囚徒ハ其恩德ニ服シ改悛スルモノ小
 ナラサリキ一千八百五十二年ミストルヘールリック、ユ
 ンナラン氏此ノ監獄ヲ視察シテ報告書ヲ作レリ其書
 ニ曰ク
 白晝ハ獄屋ノ各門ヲ開キタルト雖モ一人ノ立テ之
 ヲ監視スルヲ又二十人ノ看視アレモ一人ノ門署
 ニ坐シテ通行人ヲ檢査スルヲ皆遙カニ隔タル監
 視休憩所ニ相集リテ茶譚ヲ爲ス者ノ又各處ノ戸
 締ニハ栓ヲ嵌メ或ハ門ヲ用フルヲナク唯尋常ノ錠
 前ヲ附スルノ獄中ノ部屋ハ約千鎖サ、レハ極メ

テ往來ニ便ナリ又工役場ハ別ニ役人ヲ用ヒスシテ
 囚徒中ヨリ品行方正ナル者ヲ擇出シテ之ニ監視セ
 シ典獄余ノ語テ曰ク當獄ノ
 囚徒ハ獄則テ破ル者極メテ少ニシテ偶之ヲ破ラシ
 トスル者アルモ相互ニ説諭シテ之ヲ遂クルニ至ラ
 ズ又囚徒ハ數部ニ分テ器具機械等ヲ給與シ各其業
 ニ就カシムルヲ以テ鍛冶ヲ爲スモノアリ又泥工ヲ
 爲スモノアリ又仕立物ヲ爲スモノアリテ善良ナル
 各種ノ製品ヲ製造シ各其職業ニ勉勵スルカ故ニ刑
 期滿限ニ至リ其間ノ工錢ヨリ獄費ヲ扣除スルモ其

殘額ハ許多ナリ是レ總テ囚徒ニ與フルモノトス又
囚徒ノ休憩時間ニ相會シテ相互ニ談話スルハ其自
由ニ任スモ相接スルニハ恭敬ヲ重ンシ曾テ禁制ヲ
犯シタル者ナシト云ヘリ

今斯ニム、オバーメエル氏ノ獄則ノ効果如何ヲ察スルニ
同氏ノ典獄ニ任スルハケ―セルス日耳曼ノ地名ノ監獄ヲ以
テ其初メトス茲ニ在勤スルヲ凡ソ六年其間ノ刑期滿
限ノ囚徒ハ一百三十二人ニシテ其中歸善ヲ再犯ヲ爲サ
ザル者一百二十三人ノ多キニ及ヒタレモ再犯ヲ爲シ
タル者ハ僅ニ七人ニ過ギス其後氏ノ在勤監獄ヲミ

ニツテ註ハ前トス此ニ在ル者凡ソ三年ヨリ千八百四十二年
ニツテ其間放免ノ囚徒ハ二百九十八人ニシテ其中歸善
シテ再犯セザルモノ二百四十六人眞實ニ改善シタル
ヤ否ハ未タ確實ナラスト雖モ判然タル罪科ヲ犯サ
ルニ付キ入監スルニ至ラサルモノ二十六人犯罪明瞭
ナルニ至ラサルモ再ヒ吟味ヲ受ケタルモノ四人又違
警罪ヲ犯シタルモノ六人再ヒ入監セシモノ八人又病
死セシモノ八人アリ蓋シ是レム、オバーメエル氏ノ報告
ニ係ルモノニシテ殊ニ其證據トスル所ノ確實ナルハ
同氏ノ明言スル所ナルノミナラス同氏ノ功績虚ナラ

サルハストルベルレーク、コナラン、ダオンセント、ミ
 ストルナヤヨシコンブ并ニ曾テバーバリヤニ特遣セ
 ラレタル我英國使節ナルサーナヤヨシミルバンク氏
 等ノ證言スル所ナリ

又メエトレ佛國ノ地名ノ少年懲治場ハ制度大ニ其宜ヲ

得ルヲ以テ少年ノ改過遷善ノ功ヲ奏シタルト少ナカ
 ラサルハ夙ニ世人ノ知ル所ナリシカ此懲治場ヲ設ク
 ルノ旨趣モ亦余カ既ニ説ク所ノ道義ニ基クモノトス
 抑此懲治場ハ壁或ハ柵ヲ設ケ懲治人ノ出入ヲ嚴ニス
 ルトナク又室内ニ之ヲ幽閉スルトナシ唯在場中ニ過

失ヲ爲ス者アレハ之ヲ懲戒スルカ爲メ一時小房ニ幽
 閉スルノミ職業ヲ勤勵スルヲ主トシ決シテ身體ヲ拘
 束スルヲ旨ト爲サルナリ故ニ工業ニ就クモ農業ニ
 就クモ懲治人ノ意ニ任セ且ツ各自ノ室内ヲ掃除シ或
 ハ炊焚スルカ如キハ各自ニ其責ニ當ラシム仕事ハ各
 自ニ分課シ勸工長ノ見込ニテ賞金ヲ與ヘテ而シ其一
 半ハ少年ノ意ニ任セテ使用セシメ餘一半ハトールス
 佛國佛國名ノ貯藏銀行ニ預ケ置クモノトス又四期毎ニ衣
 服ヲ給與スルハ制規ナレモ若シ定期ニ至ラスノ新ナ
 ル衣服ヲ着セント欲スルハ兼テ銀行ニ預ケシ所ノ

預金ヲ以テ之ヲ購求セシメ若シ又之ニ反メ其期ニ至
 リ衣服破損セスシテ猶ホ着用スルニ足ルキハ衣服ヲ
 給與セスシテ其衣服ノ代價ニ相當ナル金員ヲ與フル
 モノトス又運動時間ハ一日毎ニ二時トス又懲治人ノ
 一部ヲ以テ消防隊ヲ編制スルノ規則ナリシカ曾テ近
 傍ノ發火ニ際シテ其隊ノ功少カラスト云フ蓋シ此ニ
 歴舉スル所ノ事實ニ於テ懲治人ヲ誘動メ之ヲ改悛セ
 シムルノ要ハ徒ニ之ニ制限ヲ加ヘテ束縛セサルヲ己
 ノ勤勞ニ頼リテ衣食ヲ求メシムルヲ格外ノ勤勞アレ
 ハ格外ノ利益ヲ與フルヲノ數事ニ外ナラサルヤ明白

愛爾蘭土ノ
 獄則ヲ論ス

又近來愛爾蘭土ニ於テ實施セラレタル獄制ノ如キハ
 其効果ノ大ナルヤ余カ所論ヲシテ確實ナラシムルヲ
 ニ於テハ既ニ掲クル所ノ獄則ニ劣ラサルモノトス而
 シテ此獄則ノ旨趣ハ工業ニ從事セシメテ己ノ情欲ヲ
 制シ能ク節儉ヲ守リ獨立ノ活計ヲ爲スヲノ氣風ヲ顯
 ハスニ從テ漸ク自由ヲ與フルニ在レハ尋常一般ノ過
 嚴ナル獄則トハ全ク性質ヲ異ニスルモノナリ蓋シ若
 干ノ時期ヲ定メ工業ニ從事セシメテ囚徒ノ氣風如何
 ナリ監察シ若シ改悛ノ狀アレハ其期ヲ終フルノ後ハ獄

丁ヲ附スルヲナク市中ニ奔走セシメテ小使ノ用ニ充テ或ハ獄外ニ於テ其他ノ仕事ヲ爲サシメ毎日定課ヲ終レハ三時ノ間獄外ニ出テ遊歩スルヲ許スヲナレモ門限ヲ誤リタルヲナク又出獄シテ自由ヲ得ルノ時ニ資本トシテ與フルカ爲メニ工錢ノ一部ハ貯藏銀行ニ預ケ置キ其餘部ハ囚徒ノ手ニ附メ之ヲ使用スル自由ヲ與フルモ曾テ之ヲ濫用シタルヲナシ要スルニ此獄則ノ實施以後ハ囚徒ノ能ク獄則ヲ謹守シ自ラ好テ勞働ヲ爲スコソ如キハ未ダ曾テ獄舎ニ於テ見サル所ナリ一千八百五十七年「加比丹」クラフトン氏ノ監獄報告

書ニ據レハ數ヶ年間ニ解放セシ囚徒一百十二名ノ中八十五名ハ改過ニ趣ケレモ九名ハ其解放ノ後日尙ホ淺キヲ以テ未ダ改悛ノ實効如何ヲ審カニス可ラサルモノアリ五名ハ再ヒ犯罪ヲ爲スモノトス自餘ノ十三名ノ事跡ニ至テハ未ダ詳カナラスト雖モ傳聞スル所ニ據レハ其中五人ハ國ヲ去リ三名ハ兵籍ニ編入セラレタリト云フ

又「加比丹」マコノーチ氏ノ法ハ其主意トスル所徒ニ囚徒ヲ管束スルヲナク自由ヲ與ヘ自分ノ勞力ニ頼リテ其身ヲ養ハシムルニアリ故ニ刑ノ言渡ヲ爲スキハ兼テ

定課スヘキ作業ノ言渡ヲ爲スヲ常トス而シテ教育又ハ快樂ノ如キハ勿論食物衣服臥具等ニ至ルマテ都テ官給セシテ囚徒ノ仕事ヲ爲ス者ニハ毎日切手一銀ヲ證スル書付ヲ云フヲ交付シ時々囚徒ノ必需品ヲ要スルコトアルキハ其代價ヲ計算シ之ニ相當スル所ノ切手ト交換シテ其貨品ヲ給與シ尙ホ殘餘アレハ監署ニ之ヲ預リ置キ滿期放免ノ時ニ至リ交付スルノ制ナレハ囚徒ヲシテ自ラ其行狀ヲ方正ニシ作業ヲ勉勵セシメ又囚徒ノ罪ヲ犯スキハ其輕重ニ從ヒ相當ノ罰金ヲ言渡シテ之ヲ懲戒スルモノト不蓋シ切手ヲ以テ通貨ニ代用スル

ノ便法ハ「加比丹」マコソトナ氏ノ曾テノールフルク島地

利亞ノ監獄署ニ在勤セル時ニ適用セシ者ナレバ今

同氏ノ手筆ニ係レル効用書ヲ拔摘シテ左ニ掲ク

曰ク余ヤ此法ヲ實施シテヨリ以來囚徒ハ作業ノ勞ヲ厭ハス却テ之ヲ好ミ大ニ奮勵ノ念ヲ生シ爲メニ目ニ技藝ニ熟練スルノ益アルモ徒ニ囚徒ヲ制縛シ其惡意ヲ長セシムルノ害ナシ又囚徒ヲ教育スルハ余ノ欲スル所ナレモ余カ獄則テ設クルノ主義ハ勞働セサル者ニハ如何ナル者ト雖モ一切之レカ給與ヲ禁スルニ在リ故ニ唯教育ノ一點ニ至リ此主義ニ

背戾スルヲ欲セス是ヲ以テ囚徒ノ學科ニ就ント欲スル者アルモ勞力ニ由リテ得タル切手ヲ出ス者ノミニ之ヲ許セハ其學科ニ就ク者ハ刻苦甚ク勉ム故ニ晚學ニシテ其學業ニ進ムノ速ナルハ未ダ曾テ聞知セサル所ナリ又囚徒ノ在監中ニ犯シタル犯罪ニ就テハ輕重トナク切手ヲ抵當トシ品行ノ方正ナル囚徒ニシテ其改悛シタルヲ保證スル者アレハ保釋ヲ許スモノトス

又同氏ハ囚徒ノ病室及ヒ埋葬規則ヲ制定スルニ於テ同上ノ旨趣即チ自ラ勞シ自ラ衣食スルノ正理ニ基キ

囚徒ヲシテ因果應報ノ自然ニ任セテ其苦樂ヲ經驗セシムルニ在リ蓋シ是レ同氏ノ常ニ抱持スル所ノ主義ナリト自ラ明言スル所ニ誠ニ正鵠ヲ誤ラサル者ノ如シ今斯ニ同氏ノ制定ニ係ル獄則全體ノ結果如何ヲ察スルニ抑ソールフルク島監獄ノ囚徒ハ從來非常ニ惡習ニ感染シ其卑陋ナルハ普ク世人ノ知ル所ナルヘシ然ルニ同氏ノ此ニ典獄ニ任スルノ後ハ囚徒ノ全ク改悛セルモノ多キノミナラス囚徒中ノ極惡ナル者ト雖モ大ニ歸善ノ功ヲ奏シタルニ非スヤ同氏ノ言ニヨレハ其赴任ノ後四年間ニ再犯ノ囚徒九百二十名ヲ解

放シセデ子一換地利亞一名ニ送致シタリシカ其後再ヒ罪ヲ犯シタルモノハ纔ニ百分ノ二ニ過キス然ルニ同時ニ本獄ト獄則ヲ異ニセルハンテリメン一換地利亞一ノ監獄ニ於テ放免シタル再犯囚徒ニシテ重子テ罪ヲ犯シタル者ハ百分ノ九ニ下ラスト云ヘリ余曾テミストルハルレイス氏ノ殖民地囚獄論ヲ視ルニ陋習ニ感染シタル不幸ヲ囚徒ニシテ能ク過テ改メ善ニ遷リ身體ノ品格ヲ回復シ衣服ヲ改良スルヲ得タル者ハマコノ一氏ノ此監獄ニ典獄タルニ至リテ始メテ之ヲ見ルヲ得タリト云ヘリ又教士子一ロル氏一ノ言ヲ聞クニ余ヤ此地ニ存スル丁久シ然レモマコノ一氏ノ典獄トナリテ以來犯罪ノ日ニ減スルカ如キハ近來ニ稀ビナル所ニシテ恐クハ此ノ如ク犯罪ノ減少スルノ速カナルハ古今ニ照シテ其例ヲ見ルヲ得サルヘシト云ヘリ此他諸氏ノマコノ一氏ノ法ニ就テ其實効ノ偉大ナルヲ證明スル者多シトス又トマステ一キソン氏曾テ西

澳地利亞ノ監獄ニ典獄トナリ此法ノ効績ヲ試ミタリシカ此法ヲ行フニヨリ囚徒ノ業ヲ勵ミ其産出スル所ノ者ノ多キハ固ヨリ論ヲ俟タサル所ニシテ此法ヲ適用セサルノ以前ヨリ繼續スル所ノ囚徒ノミニ就テ視

レハ改悛囚徒放免ノ後英蘭ニ歸リ再ヒ罪ヲ犯ス者アリセサルモノ少カラスト雖モ囚徒ノ全體ニ就テ視ルキハ歸善セルモノ甚タ多シト云ヘリ之ニ由リテ觀レハ此方法未タ全ク備ハラサルノ時(政府未タ囚徒解散ノ手段タル切手ニ世間一般ノ通用ヲ許サ、ルモ)好果ヲ得ルヲ既ニ此ノ如ク大ナレハ若シ此法ヲシテ充全ナル効力ヲ有セシメタランニハ其効績更ニ之ニ幾倍スルモ未タ知ルヘカラサルナリ

又更ニ適切ナル證左ヲ擧ケンニ一千八百三十五年、コ

ロ子ル「モンテシス氏ノウエレエチスヤ」
換地利亞ノ都邑ノ名 監獄

ノ典獄トナリシカ此ノ時ニ當リ我英國并ニ歐洲大陸ノ諸國ニ於テハ放免ノ囚徒ニシテ再ヒ罪ヲ犯セシ者ヲ平均スレハ百分ノ三十乃至三十五名ニ下ラサルモ此ニ同氏ノ在勤ノ年間ノ放免囚徒ノ再犯セシ者ニ就テ前十年間ヲ平均スレハ百分ノ一二過キサルノミナラス後三年間ニ至リ一名モ再ヒ罪ヲ犯セシ者アルナシ是レ畢竟同氏ノ法其宜ヲ得ルニ由ルナリ蓋シ其法トハ他ナシ唯束縛ヲ輕クシ勸工ノ之ヲ勉メシムルニ在ルノミ又ミストルホスキンス氏ノ監獄論ヲ視ルニ此法ノ効績ヲ證スルニ足ルモノアリ今抜摘シテ左ニ掲ク

曰ク凡ソ獄内ノ囚徒數千ニ過クト雖モ之ヲ監視スルモノバ十二名ノ老兵ニ過キヌ又各所ノ門戸ハ門栓等ヲ用ヒテ密閉スルヲモシ又工場ニ於テ三四名ノ監看アルト雖モ和平ヲ秉リテ壓制ノ所置アルトナク囚徒ノ工場ニ在ルヤ恰モ私家ノ如シ又未決囚ノ入監スルヤ初メハ其體ニ鐵鎖ヲ纏フト雖モ少シク改悛ノ狀ヲ顯シタル後之ヲ脱セシムルヲアルヘシ又已決囚ヲメ職業ニ就カシムルニハ必ス其初メニ於テ如何ナル職業ヲ習行スルヤヲ問ヒ其所好ニ任セテ之ニ從事セシメ且ツ諸機械ニシテ其職業ニ必

要ナルモノハ一トシテ給與セサルハナシ是ヲ以テ紡績匠アリ織編匠アリ鍛冶匠アリ製靴匠アリ造籃匠アリ造繩匠アリ指物匠アリ泥工アリテ各其業ニ熟セリ故ニ獄舍ヲ修繕シ或ハ之ヲ再建シ或ハ之ヲ掃除スルカ如キハ皆囚徒ヲ以テ其用ニ供スルヲ得タリ而シテ囚徒ハ快活トシテ自ラ樂ムノ顔色アリ其進退ニ節アリテ容貌ノ卑陋ナラサルハ前日ノ囚徒ト日ヲ同ウシテ語ルヘキニ非ス是レ畢竟スルニ囚徒ヲシテ有益ナル職業ニ就カシメ其處置ノ宜キニ因ルモノトス而シテ囚徒ノ耳目ヲ樂マシムルカ爲メ植

物園ノ設ケアリテ奇果異花少カラス又動物園アリ
 テ珍禽異獸群聚セリ而シテ獄内ニ浴湯場アリ又煙
 草其他雜品ヲ販賣スル商店アリテ囚徒ニ便宜ヲ得
 ゼシムルニ由リ囚徒ハ各其職業ニ勉勵シ工錢ヲ得
 ルコト甚タ多シトス是ヲ以テ其四分ノ一ハ囚徒ニ與
 ヘ勝手ニ之ヲ使用セシメ又四分ノ一ハ出獄後ノ資
 本トシテ之ヲ積蓄セシメ四分ノ二ヲ獄費ニ充ルモ
 毫モ政府ノ支給ヲ仰クコトヲ要セスト云テ
 此ノ如クミストルホスキン氏ノ「コロチル」モンテシス
 氏ノ創立ニ係ル獄則ノ功績ヲ稱歎シテ措サルハ固ヨ

リ其所ホリト雖モ其結果ノ本源タルヤ他ニアラス余
 カ既ニ説クカ如ク道義ヲ重シスルノ一事ニ在ルノミ
 今其獄則ノ真意ヲ考フルニ徒ニ囚徒ヲ制壓スルコト
 ク各其業ニ就カシメ己ノ勞力ニ依リ衣食スルノ道ヲ
 與ヘ而シテ其工錢ヲ以テ獄則ニ於テ禁セサルノ需要品
 ヲ購求スルコトヲ許スニ在ルノミ又「コロチル」モンテシ
 ス氏ノ言ニヨレハ其主義ノ大要トスル所ハ獄則ヲ破
 ルニ至ラサレハ務メテ自由ヲ與フルノ一事ニ在ルカ
 如シ之ニ由リテ觀レハ囚徒ヲ束縛スルモ其主意トス
 ル所社會ヲ保護スルニ止メテ過嚴ナラサレハ是レ道

義の許す所ナラスヤ左レハ其社會ヲ害セサル所爲ニ
 至リテハ充分ニ自由ヲ與ヘテ快樂ヲ得セシムルモ亦
 道義の許す所タルハ疑ヲ容レサル所ナリ
 余思フニ此の如ク理論上の判定ト試験上の結果ト相
 期シテ符合スルハ蓋シ然ルヘキ故アリテ然ルナラン
 何トナレハ一方ニ於テ純然タル道義ヲ執リ社會ト囚
 徒との關係ニ付キ其雙方の權利の貴重ナル所以ヲ論
 スルノミニテ毫モ囚徒ヲシテ歸善セシムルノ道ヲ講
 シタルコトナシ然ルニ他ノ一方ニ於テハ權道ヲ執リ社
 會の權利ト囚徒との權利トハ論外ニ置キ唯罪人ヲシ

テ改過セシムルヲ以テ其目的トシタルモ遂ニ此ノ如
 ク道義ニ適スル所ノ獄則チ制定シ囚徒ヲ改過セシム
 ルノ實効ヲ奏シタルニ非スヤ然ラハ理論上の判定ト
 試験上の結果ト相離レサルハ天理ノ然ラシムル所決
 シテ怪ムニ足ラサルナリ
 又囚徒ヲシテ過ヲ改メ善ニ遷ラシムルカ爲メ公正ナ
 ル獄則ノ道義ニ適スルコトハ理論ト實驗トチ比準スル
 コトナク唯理論上ノミニ於テ之ヲ證明スルモ亦難キニ
 非サルヘシ夫レ人ハ公平ヲ貴重スルノ性ヲ備フレハ
 人ニシテ過誤アルモ之ヲ責罰スルコトノ過嚴ナルキハ

憤怒ヲ發起スルノ甚シキ遂ニ己ヲ咎メヌシテ却テ人
 ヲ恨ムルニ至ルモノナラヘシ故ニ若シ囚徒ヲ制禁ス
 ルニ於テ寛嚴ノ程度ヲ失スルヲナク之ヲ社會ヲ保護
 スルニ止メテ敢テ復讐ノ故意ニ出サルヲ示シタラ
 シニハ囚徒ト雖モ刑罰ノ犯罪ニ隨起スルハ因果應報
 ノ自然ニ出テ、免レ難キヲ覺リ必ス憤怒ヲ發スルニ
 至ラサルヘシ若シ之ニ反シ徒ニ苦痛ヲ與フルルハ刑
 罰ノ過嚴ニシテ其不當ナルヲ感覺シ自ラ枉曲ヲ蒙ム
 リタルト止認ムルニ至ルヘシ是ヲ以テ此ノ如キ過嚴
 ナル取扱ヒヲ爲ス者ニ對シ恨ヲ抱クト日ニ重キヲ加

囚徒ノ役法
 ヲ定メサル
 ハカラサル
 ト論ス

ブルニ由リ遂ニ復讐ノ志念ヲ生スルニ至ルヲ以テ出
 獄スルニ及ンテ尙ホ悔過改悛ノ實効ヲ顯ハスヲナク
 再ヒ惡行ヲ爲スニ至ルナラン其ヤ縱令ヒ再ヒ罪科
 ナ犯スニ至ラサルモ常ニ恐怖ノ念ヲ抱キ之レカ爲メ
 卑屈ノ徒タルヲ免レサルナリ
 偕テ役法ヲ設ケ囚徒ヲシテ役ニ就カシムルトハ囚人
 ナ改悛モシムルニ於テ其効力少カラサルナリ故ニ苟
 モ完全ナル獄則ヲ設ケントスルニ於テハ之ヲ以テ缺
 ク可ラサルノ要事トス今其所以ヲ説カンニ人既ニ社
 會ヲ爲セハ各自ノ勞力ニ頼リテ衣食ヲ求ムルヲ必

要ナルハ各其感覺スル所ニシテ此事タルヤ概シテ人
 ナ刺衝シテ知ラス識ラス勞働セシムルニ足ルヘシト
 雖モ放侈ニシテ怠惰ナル徒ニ至テハ然ラサルコアル
 ヘシ是ヲ以テ此ノ如キノ徒ハ自ラ勤勞スルヲ欲セサ
 ルモ尙ホ衣食ヲ要スルヲ以テ不正ノ道ニ依テ之ヲ求
 ムルハ自然ノ勢ニシテ是レ犯罪人ノ多クハ游手徒食
 シ徒ヨリ出ツル所以ナリ故ニ懶惰ハ即チ犯罪ノ原因
 ナレハ之ヲ治スルノ法ハ即チ犯罪ヲ絶ツノ法ナリト
 謂フモ敢テ不可ナカルヘシ然ラハ懶惰ヲ治スルコト如
 何ンシテ可ナラン乎懶惰ヲ治スルノ法ハ他チシ役ニ

就カシメテ勞働スルノ慣習ヲ得セシムルニ外ナラス
 而メ其法ノ大要タルヤ社會ニ損害ヲ與ヘタル惡徒ヲ
 改良シテ再モ善人タラシムルヲ主トシテ若シ故サラ
 ニ服役セサル者アルキハ凍餓死スルモ衣食ヲ與ヘサ
 ルニ在ルノミ
 又此法ハ道義ノ許ス所ニシテ余ノ之ヲ有益ナリトス
 ル所以ヲ説カンニ前既ニ説ク如ク在監ノ囚徒ヲシテ
 役ニ就カシメテ能ク勞働スルアレハ衣食ヲ得ル望ア
 ラシメ怠惰ニ流ルレハ飢渴ニ迫ルノ恐アラシムルハ
 道義ニ適スル所ニシテ此法ヲ用フレハ罪人ノ勞働ス

ルハ自然ノ勢ニシテ其勞働スルノ念ハ衷心ヨリ發ス
 ヘシ故ニ此ノ如クニシテ勤勞ニ慣レシムルヲハ即チ衣
 食ヲ他人ニ仰カサルノ習慣ヲ得セシムルニ他ナラス
 是ヲ以テ惡徒ヲシテ良民タラシムルニ於テ其効力ノ大
 ナルハ余ハ之ヲ確信スルモリ抑衷情ヨリ勤勞ノ念ヲ
 發セシムルヲ主トセスシテ徒ニ束縛ノ就役セシムル
 カ如キハ束縛セラレタルカ爲メニ其間已ムヲナク就
 役スルヲ決シテ衷情ヨリ就役スル念ヲ發シタルニ
 非ス故ニ再ヒ出獄ノ日ニ當リテハ束縛セラレ所ナ
 キニ由リ再ヒ怠惰人タルニ至ルヘシ之ニ反シテ衷情

ヨリ勤勞スルノ念ヲ發セシメテ出獄ノ後ト雖モ尙ホ
 其念ヲシテ胸間ヲ離レサラシムルヲアレハ此ニ至ラ
 サルヘシ然ラハ徒ニ制縛シテ就役セシムルヲナク自
 ラ勤勞ノ要ヲ知り服役セシムルノ方法ハ如何ンシ可
 ナランカ曰ク公道ニ基キテ獄則ヲ立ルニ在ルノミ
 既ニ公平ヲ主トシテ獄則ヲ制定スルヲ道義ニ適スル
 所以ヲ論シタレハ今ヤ歩ヲ進メテ今日既ニ適用スル
 諸法度ハ益開進スルヤ將タ又退歩スルヤヲ討究スル
 アラントス倍テ刑罰ヲ以テ社會ノ安寧ヲ維持スルノ
 用ト爲スハ道義ノ許ス所ニシテ此事ヤ洵ニ記臆セサ

ル可ラサル大事ナリ而シテ刑罰ノ性質ニ就テ其要點
 ナ解釋スルハ難キニ非ラスト雖モ其期限ヲ判定スル
 ニ至リテハ頗ル困難ナキヲ得ス夫レ犯罪人ヲ如何ナ
 ル刑期ニ處スレハ再ヒ罪ヲ犯シ社會ノ靜寧ヲ害セザ
 ルニ至ルカヲ知ルノ方法ハ今日未タ明カナラサルニ
 由リ長短其宜ヲ得サルヲ多シ刑期長ニ失スレハ罪人
 ニ對メ不正ヲ爲スノ恐アリ短ニ過クレハ社會ニ對シ
 テ不正ヲ爲スノ憂アルハ是レ畢竟スルニ確乎不變ナ
 ル標準ヲ得サルニ由ルモノトス

今我英國現行ノ法律ヲ視ルニ刑期ノ長短ハ全ク經練

刑期ノ長短
 ナ定ムルノ
 方法ヲ論ス

上ヨリ之ヲ定ムルニ過キス而シテ其刑期ヲ定ムルヤ初
 メ立法者ハ己レカ意見ノ存スル所ニ任セ勝手ニ犯罪
 ノ字義ヲ解釋シ之ニ擬スヘキ刑期ニ就テ其最短期ト
 最長期トヲ定ムルノミニソ(即チ何年何月ヨリ多カラ
 ス何年何月ヨリ少カラサルノ流刑或ハ禁獄ニ處スル
 ノ類)其兩期ノ間ニ於テ之ヲ伸縮シテ斟酌スルハ裁判
 官ニ委スルモノトス而シテ裁判官ノ之ヲ斷定スルニ
 於テ其準據トスル所ハ犯罪ノ特質所犯ノ事情犯人ノ
 容貌並ニ其性質ノ如キ諸點ナレハ畢竟此ノ如ク判定
 スル是非ハ唯裁判官ノ道義ニ就テ其意見如何ニ因ル

モノナルヘシ故ニ刑期ヲ判定スルハ全ク推測ニ基キ
 タルモノト謂フヘキナリ蓋シ推測ノ過誤ヲ免レサル
 ハ諺ニ所謂ル裁判ノ裁判ナル語アルヲ以テ之ヲ證ス
 ルニ足ルヘシト雖モ尙ホ實際ニ就テ之ヲ視ルニ我英
 國ニ於テ重罪裁判所ノ判決カ常ニ寬嚴其度ヲ誤ルカ
 故ニ一方ニ於テハ輕少ナル罪ヲ犯シテ過長ノ刑期ニ
 處セラレ、者少カラサルニ又一方ニ於テハ其處刑期
 限ノ短ニ失シテ犯罪人ヲ懲ラスニ足ラサルニ由リ隨
 テ出獄スレハ隨テ罪ヲ犯スモノ實ニ多シトス
 既ニ現今ノ刑期ヲ定ムル方法ニ就テ其穩當ナラサル

所以ヲ論述シタレハ今ヤ此方法ヲ除キテ他ニ良法ヲ
 考出シ得ルヤ否ハ論窮セサル可ラサルノ一大論題ナ
 レモ此ノ如ク推測ニ頼リテ僻見ニ陷ルノ憂ナク各種
 ノ犯罪ニ適當ナル刑期ヲ定ムルヲ得ルハ道義ニ基
 キテ之ヲ定斷スルノ一途アルヲ蓋シ道義ニ據リテ
 之ヲ考ワルニ其本旨トスル所ハ犯罪人ヲシテ贓物ヲ返
 還セシメ或ハ其損害ヲ賠償セシムルニ外ナラス然レ
 モ犯人ノ多クハ贓物ノ返還或ハ損害ノ賠償ヲ爲シ能
 ハサルニ由リ實刑ニ處セサルヲ得ス既ニ之ニ處スル
 モノトスルモ損害ノ大小ニ從テ刑罰ニ輕重ナカル可

ラサルハ勿論ニ付キ刑期ノ長短ヲ定メテ之ヲ輕重スルモノトス然レモ此ノ如ク犯人ヲノ贓物ノ返還或ハ損害ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ道義ノ本旨ナリト爲スニ於テハ反對論者ハ必ス異論シ云ハン富者ノ如キハ損害ヲ賠償スルノ資力ニ乏カラサルモノナリ故此ノ如キ所置ハ之ヲ懲戒スルニ足ラサルヘシト眞ニ論者ノ說ノ如ク然リ然レモ罪ヲ犯ス者ハ富者ニ少ク貧人ニ多キハ今日既ニ明白ナル所ナレハ其罪ヲ犯シ易キ貧人ニ有効ナル方法ハ善良ナリト謂ハサル可ラサルナリ而シテ其刑期ハ刑ノ言渡ヲ爲スキ損害ノ大小

ニ依リ長短ヲ定メ而シテ後懲治場ニ在ル時囚徒ノ怠惰ト勉勵トニ依リ之ヲ伸縮スルモノトス蓋シ犯罪上ヨリ生シタル損害ト惡意トノ間ニ於テ精密ニ比較ヲ取ルトハ爲シ得ヘキニ非スト雖モ然レモ概シテ刑期ノ長短ヲ損害ノ大小ニ依リテ定ムルノ穩當ナルトハ立法者カ多數ノ決ヲ取テ定メタル刑期ヲ再ヒ裁判官ノ推測ニ依テ之ヲ斟酌スルトヨリ復カニ優サレルモノトス

然レモ猶ホ一層刑期ノ長短其宜キヲ得ルノ方法ヲ得タランニ罪ヲ懲戒スルニ於テ寬嚴其度ヲ失スルトナ

カルヘシ蓋シ其方法トハ何ソヤ刑期滿限ニ至リテ放免スルキ囚徒ノ親戚朋友其他ノ者ヲ呼出シ再犯ヲ爲サ、ルヲ保證スルヤ否ヲ尋問シ若シ之ヲ保證スレハ囚徒ヲ放免シ否ヲサレハ之ヲ留置シ以テ刑期ヲ斟酌スルヲ是レナリ既ニ我英國ノ如キハ重罪犯ニ限リ將來囚徒ノ行狀改良シタルヲ保證スルモノアレハ之ヲ放免スルヲ以テ其保證人ヲ得ルヲノ難易ニ依リ囚徒ノ改悔シタルト否トヲ識別スルニ於テ便利少カラスト雖モ若シ此方法ヲ獨リ重罪犯ニ限ラスシテ一般ノ犯罪ニ適用シタランニハ其利益更ニ今日ニ幾倍

スルモ未ダ知ルヘカラス是レ余カ冀望スル所ナリ又今日我英國ニ於テ犯人ヲ糾問スルニ際シテ保證人ヲ招喚シ犯人ニ就キ從來ノ品行如何ヲ尋問シ不善ナリト答フレハ固ヨリ之ヲ保證セシメスト雖モ若シ善良ナリト答フレハ其旨ヲ保證セシメテ裁判官ハ其保證人ノ身分柄ト其人數ノ多寡ト證言ノ性質如何ヲ察シテ而メ後犯人ニ就キ其全體ノ性質如何ヲ推測シテ刑期ノ長短ヲ節定スト雖モ是レ裁判官カ世間ノ評說ニ據リテ犯人ノ品行如何ヲ推測スルニ過キス若シ此ノ如ク世間ノ評說ヲ取リテ之ヲ參考ニ充ツルノ制ヲ

廢シ更ニ之ヲ直接ノ證據ト爲スヲ得タラシムニハ世人
 ハ之ヲ法律上ノ一大進歩ト謂ハスシテ將タ何ト謂フ
 乎余ハ此ノ如ク裁判官カ親戚隣佑ノ證言ニ據リテ犯
 人ノ品行如何ヲ推測スルハ其親戚隣佑ノ自ラ之ヲ評
 量スルニ如カス又單ニ證人タルノ資格ヲ以テ親戚隣
 佑ノ評量スルハ犯人ノ進退ニ關シテ利害ヲ異ニスル
 ノ大任ニ在ル者ノ證言ニ及ハサルヲ信ス要スルニ余
 カ冀望スル所ハ犯人ノ刑期ヲ節定スルニ於テハ久シ
 ク其犯人ト親炙シテ其品行如何ヲ熟知セシ者ヲシテ
 之ヲ判定セシメテ而シテ其判定ノ眞偽如何ハ甘承シ

テ之レヲ保證スルト否トニ依リテ判定スルニ在ルノ
 ミ
 而シテ其方法タルヤ簡易ニシテ施行スルニ極メテ便
 ナリ即チ其方法トハ囚徒ノ監獄ニ在ルノ間ニ非常ニ
 職業ニ勉勵シ未タ刑期ヲ終ハラサルニ既ニ定課ノ業
 務ヲ了リタルト其親戚隣佑ノ者ニテ其將來ノ品行ヲ
 保證シ之カ保釋ヲ乞フトハ之ヲ許可スルニ在リ而シ
 テ之ヲ許否スルノ權ハ固ヨリ政府ニ在ルカ故ニ政府
 ニ於テ其囚徒ノ品行未タ充分ニ改良スルニ至ラスト
 認定スレハ再ヒ之ヲ獄屋ニ入ル、ノ權アルモノトス

又保釋人タルヲ得ルモノハ善良ニシテ且ツ富有ナ
 ラサルヘカラサルノ制ヲ定メテ其保釋中(刑期ノ殘餘
 ナ云フ)ニ囚徒ノ再ヒ罪ヲ犯シ以テ他人ヲ害スルコト
 レハ之ヲ賠償セシムルノ責ニ當ラシムルナリ蓋シ此
 方法タルヤ或ハ世人ノ奇怪視スル所タルヲ免レサル
 ヘシト雖モ之ヲ實踐スルニ於テ危險ニ陷ルノ弊ナキ
 ハ余カ固ク保證スル所ニシテ且ツ既ニ實施セラレタ
 ル企圖ノ實効ヲ奏シタルモノニシテ是ヨリ尙ホ危殆
 ナルモノアルハ世人ノ知ル所ナルヘシ
 偕テ此方法ニ從ヘハ保釋人ト囚徒トハ傭者ト被傭者

トノ關係ニ在ルモノニシテ保釋人ノ囚徒ヲ保釋スル
 ノ目的ハ世間一般ノ賃銀ヨリ低價ニテ之ヲ使用スル
 ニ在ルヘシト雖モ之ニ由リテ得ル所ノ利益ニアリ一
 ハ保釋人ヲ刺奨シ之ヲシテ保釋セシムルコト是レナリ
 一ハ保釋シタルニ由リ萬一損害ヲ生出スルアレバ之
 ヲ補償スルノ望ヲ生スルコト是レナリ夫レ此ノ如ク保
 釋人ニ利益アルカ故ニ囚徒ニ於テハ低價ニテ勞働シ
 且ツ保釋人ノ監督ヲ受クルノ害ナキ能ハスト雖モ之
 ヲ獄中ニ在リテ其檢束ヲ受クルコトニ比スレハ其利益
 實ニ多シトス而シテ此ノ如ク傭者ト被傭者トノ關係ニ

在ルト雖モ備者ノ一方ニ於テハ被備者ノ職業ヲ怠リ
 其品行方正ナラサルキハ契約ヲ破却シテ再ヒ之ヲ政
 府ニ交付スルノ權アリ又被備者ノ一方ニ於テハ備者
 ノ待遇苛刻ニ涉リ之ニ耐ヘサルキハ保釋中刑期ノ終ラ
 サル間ヲ指
 ス何時ニテモ獄舍ニ再歸シテ之ヲ避クルノ權アルナ
 リ

且ツ又犯罪ノ大小ニ從テ保釋人ヲ得ルヲニ難易ナキ
 ナ得サルカ故ニ大惡ナル罪人ノ如キハ容易ニ保釋人
 ナ得ル能ハサルニ由リ遽ニ出獄スルノ憂アルヲナシ
 又再犯ノ如キハ既ニ初犯ノ時ニ於テ一タビ保釋人ニ

損害ヲ蒙ムラシメタルヲ以テ初犯ニ比スレハ保釋人
 ナ得ルヲ難ガルヘク且ツ獄吏ニ於テモ其品行ノ改良
 シタルヲ確知スルニ非サレハ決メ之レカ出獄ヲ許
 サルヘシ之ニ反シテ平素篤實ヲ以テ稱セラレタル
 人ニシテ小害ヲ爲シタルカ如キ又宥恕スヘキ輕罪ノ
 如キ又百般ノ過誤ニ由リ罪ヲ得タルカ如キハ容易ニ
 出獄スルノ機會ヲ得又冤罪ノ如キハ之ヲ救濟スルノ
 利益アルナリ要スルニ法律ノ不正ナルカ爲メ或ハ裁
 判官ノ誤謬ニ由リ縱令ヒ一時枉曲ヲ蒙リタルモノト
 雖モ既ニ篤實ノ名聲ヲ世間ニ高フセシ者ナレハ容易

ニ之ヲ矯正スルノ利益アルナリ

又此他ニ此方法ノ利益ヲ擧クレハ放侈怠惰ニシテ工業ニ従事スルヲ好マサルモノヲ容易ニ出獄スルヲ得サラシムルヲ是レナリ何トナレハ能ク工業ニ勉勵シ之ニ巧ナル者ハ概シテ社會ニ有益ナルカ故ニ隨テ保釋人ヲ得テ出獄スルノ機會ヲ得ルヲ難カラサルモ放侈怠惰ニシテ殊ニ罪ヲ犯シ易キ徒ニ至リテハ工業ニ勉勵スルノ念ナク隨テ之ニ練達スルニ至ルヲ易カラサルカ故ニ保釋人ヲ得ルヲ亦易カラサレハ出獄スルヲ自ラ難カルヘシ

既ニ論スル所ニ據レハ此方法ヲ適用スルニ於テハ社會ノ安寧ヲ保維スルニ必要トスヘキ制限ハ寬嚴其宜キヲ得ルノミナラス放侈怠惰ニシテ勤勞ヲ厭フ者ヲ容易ニ出獄スルヲ得サラシメ又現行法律ノ缺點ヲ救濟スルヲ得ヘシ而シテ此方法タルヤ實際ニ就テ視ルルハ陪審ノ方法ト大同小異アルニ過キス蓋シ現行ノ陪審法ヲ視ルニ犯罪人ノ同閭ヨリ若干ノ人員ヲ撰出シ之ヲ其有罪ナルヤ否ヲ審査セシメ若シ有罪ナリト判決スルルキハ裁判官ハ刑律ニ依リテ刑罰ノ當否ヲ判定スルモ既ニ揭クル方法ハ既ニ裁判官ノ言渡シタル

言渡ニ對シ其當否ヲ審査シ若シ重キニ過クレハ之ヲ
 輕クシ輕キニ失スレハ之ヲ重クスルニ在レハ畢竟其
 差異トスヘキ所ハ唯裁判官ノ判決ヲ下サル前ニ犯
 罪ノ有無ヲ審査スルト既ニ其判決ヲ下シタル後ニ其
 判決ノ當否ヲ審査スルニ過キス而シテ其判決ノ當否ヲ
 審査スルノ責ニ任スル者ハ囚徒ニ就テ從來ノ品行如
 何ヲ熟知シタルヲ以テ之ヲ判定スルニ適スルノミチ
 ラス殊ニ囚徒ヲ保釋スルノ當否ハ己ノ利害ニ關スル
 所少カラサルニ由リ自ラ熟察細思スル所アルヘシ
 而シテ此方法ノ無難ニシテ利益ノ多キハ彼ノ近時愛

爾蘭土ニ於テ適用シタル獄則ニ過クルモ及ハサルナ
 キナリ而シテ此ノ二法ノ差異トスヘキ所ハ一ハ自然
 ニ係リ一ハ人造ニ係ルノミ即チ自然ノ制限ト人造ノ
 制限トノ差異アルニ過キス故ニ若シ「加比丹」クロフト
 ン氏ノ曾テ試験ニ依リ證明セシ如ク人造ノ制限ヲ以
 テ制縛スルノ間獄屋ニ在ルニ在ルニ囚徒ノ品行改良スルニ從
 テ自由ヲ與フルヲ以テ之ヲ歸善セシムルノ良法ナリ
 トセハ獄吏ノ監督ニ在ルノ間ニ囚徒ノ改悛シタルト
 ト未タ罪ヲ犯サルノ前ニ於テ品行ノ方正ナルトト
 ニ由リテ自由ヲ與フルハ尙ホ萬全ナル良法ニ非スヤ

又裁判官ノ如キハ犯人ノ從來ノ品行如何ニ就テ毫モ目撃セサルノミナラス縱令ヒ其裁判ヲ誤ルモ之レカ爲メニ罰ヲ蒙ラサルモノナリ然ルニ其裁判ヲ以テ安全ナリトセハ曾テ犯人ノ未タ罪ヲ犯サルノ前ニ之ト相接シテ其品行如何ヲ熟知セシノミナラス一旦判斷ヲ誤ルキハ忽チ其損害ノ頭上ニ墮落スルノ恐アル者ノ判斷(裁判官カ其者ト反對ナル意見ヲ立テサルキ)ハ尙ホ無難ナルニ非スヤ然ラハ余カ爰ニ主張スル所ノ方法ヲ適用スルヲニ於テ利益ヲ生スルヲ多キハ明白ニシテ疑フヘカラサルナリ

今ヤ終リニ臨テ此方法ノ囚徒ヲ改悛セシムルニ有効ナル所以ト且ツ社會ノ安寧ヲ保維スルニ於テ適合スル所以ヲ説カサル可ラサルナリ抑社會ノ犯人ヲ制限スルヲ道義ノ禁セサル所以ノモノハ其制限社會ノ安寧ヲ保護スルニ必要ナルニ由レハ若シ其制限ニシテ程度ヲ越ユルキハ社會ハ却テ犯人ニ對シテ犯人タルヲ免レサルヘシ故ニ道義上ヨリ論スルキハ未タ刑期ヲ終ヘサルノ間ト雖モ囚徒ノ損害ヲ賠償シタルキ(定課ノ仕事ヲ遂ゲタルキ)ハ社會ハ囚徒ニ自由ヲ與フルモ社會ノ安寧ヲ害スルニ至ラサルノ方法ヲ以テ之

ヲ處置セサルヘカラス然ラハ利益ヲ得ルカ爲メ或ハ
 其他ノ旨趣ニ出ルヤ否ヲ問ハス温厚着實ニシ且ツ信
 憑スヘキ者ノ囚徒ニ自由ヲ與ヘ且ツ囚徒ヲ監督スル
 一ヲ以テ己ノ責ニ任セン一ヲ乞フ一アレハ社會ハ之
 ニ應セサルヲ得ス而シテ其乞ヒニ應スルモ其者ヲシ
 囚徒ノ罪ヲ犯シ損害ヲ生出スルカ如キアラハ之ヲ賠
 償セシムルノ權利ヲ失ハサルハ勿論ニシテ又人殺ノ
 如キ犯罪ニ至リテハ縱令ヒ之ヲ保釋セン一ヲ乞フ者
 アリト雖モ之ヲ拒絕スルノ權利ヲ有スルモノニシテ
 之ヲ拒絕スルハ固ヨリ其本分ナルカ如シ

金匱無缺ノ
 法典ヲ得ル
 ニ至ラサル
 所以ヲ論ス

以上既ニ論スル所ハ法典ヲ制定スルニ於テ缺ク可ラ
 サル要義タレハ常ニ肺肝ニ銘セサル可ラサルナリ抑
 本論ノ初メニ當リ道義ハ文明ノ開發スルニ從テ漸々
 人ノ之ヲ蹈行スルニ至ル一ヲ述ヘタレハ余ノ今日直
 ニ公平無私ノ法典ヲ實行スル一ヲ期望セサルハ勿論
 ニシテ縱令ヒ之ヲ期望スルモ決シテ能ハサルヘシ
 蓋シ今日完全無疵ノ法典ノ行ハレサルモノハ人智未
 タ開ケサル一德行未ダ修ラサル一犯罪ノ多キ一執政
 其宜キヲ得サル一諸源ニ由ルト雖モ就中固ク正直
 一執リテ私慾ニ蔽ハル、一ナク公平ニ事務ヲ處スル

所ノ聰明ナル官吏ヲ得ルヲ能ハサルニ由ルモノトス
 故ニ事情ニ依リテハ苛酷ノ法典ヲ適用スルモ敢テ道
 義ノ禁セサル所ナルカ如シ何トナレハ理論上ニ於テ
 如何程ニ公正ナル法典ヲ設立スルモ仁愛ニシ且ツ思
 慮ニ乏シカラサル官吏ヲ得サルカ爲メ或ハ其法典ノ
 寛仁ニシテ惡徒ヲ恐怖スルニ足ラサルニ由リ社會ノ
 安寧ヲ維持シ能ハサレハナリ之ニ由リテ觀レハ今日
 世ニ適合スルノ法典ハ外面ヨリ之ヲ視レハ公正ナル
 カ如シト雖モ内面ヨリ之ヲ視レハ其不正タルハ免レ
 サル所ニシテ是レ余カ所謂ル少惡ナル法典ナレハ即

チ屬正ノ法典ト謂フヘキナリ
 然レモ此ノ如ク今日專ラ道義ヲ以テ事ヲ處スルヲ得
 サルニ拘ハラズ權道ヲ執ルニ先シテ道義ノ何タルヲ
 知ラサルヘカラザルハ余カ既ニ證明スル所ニシテ片時
 モ遺忘スヘカラザルノ大事タリ夫レ時勢變遷スルノ
 今日ハ道義ニ背違スル所アルニ拘ハラズ權道ヲ以テ
 事ヲ處セサルヘカラスト雖モ元來道義ハ最後ノ方畧
 ニシテ權道ハ眼前ノ方畧ナレバ最後ノ方畧如何ヲ知
 ラスノ能ク眼前ノ方畧ヲ定ムルヲ難カルベシ即チ苟
 モ純正ノ何タルヲ辨知スルニ非ザルヨリ決シテ屬正ノ

何タルヲ辨知シ能ハサルナリ何トナレバ純正ハ屬正
 ナ知ルニ於テ一定不變ノ標準ニシテ之ニ由リテ屬正
 ナ求ムルハ誤ラサルヘク若シ否ラサレバ邪路ニ迷走
 スルニ至ルヘシ此事ヤ余カ掲クル所ノ事實ニテ充分
 ニ證明スル所ニシテ蓋シ其證明スル所ノ事タルヤ獨
 リ法典ノミナラス萬般ノ事物ニ就キ頑固執拗ニシテ
 徒ニ實驗ヲ重ンメ天下ノ大事ヲ誤ルコトヲ明瞭ナラシ
 ムニ足ルヘシ實ニ文明開發スルノ際ニ方リ遽ニ純正
 ナ適用センコトヲ企テ害ヲ生出シタルコト古來少カラス
 ト雖モ常ニ純正ヲ忘却シ徒ニ屬正ヲ求メタルニ由リ

テ害ヲ生出シタルコト却テ多シトス嗚呼數世ノ間徒ニ
 不當ナル制度ヲ保守シ公正ナル制度ヲ適用スルノ機
 會ヲ失シタルコト今日ヨリ之ヲ思ヘハ寔ニ我輩ノ遺
 憾ニ堪ヘサル所ナリト雖モ既往ノ事ハ之ヲ悔ルモ益
 ナシ唯既往ニ徵シテ將來ヲ慎マンノミ

明治十五年五月廿七日出版權免許

同

出版

譯述并出版者

島根縣平民

山口松五郎

東京府南葛飾郡須崎村
五十七番地

山中市兵衛

丸家善七

須原鐵二

博聞社

小笠原書房

平川吉兵衛

加藤正七

專賣書肆

明治十五年五月廿七日

各地書肆

東京

北畠茂兵衛
 稻田佐兵衛
 小林新兵衛
 北澤伊八
 石川治兵衛
 江島喜兵衛
 柳川梅次郎
 兎屋誠
 穴山篤太郎
 山中孝之助
 巖々堂
 法木德兵衛

京都

村上勘兵衛
 佐々木惣四郎
 田中治兵衛
 柳原喜兵衛
 前川善兵衛
 岡島眞七
 吉岡平助
 梅原龜七
 片野東四郎
 栗田東平

大阪

尾州

37028

31
193

1972

31

193

035706-000-3

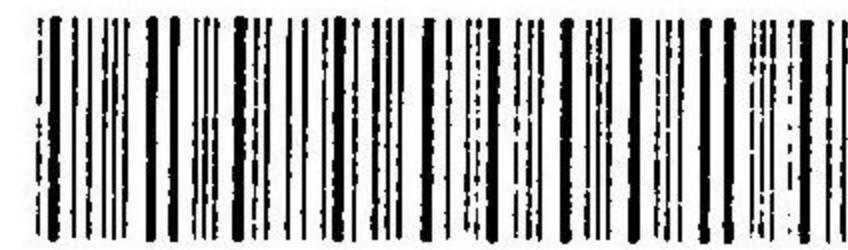
31-193

刑法原理獄則論綱

波斯辺鎖 / 著

M15

BBP-0276



25.12.18